

第3次狭山市子ども読書活動推進計画



狭山市立図書館キャラクター よむぞうくん

令和5年3月

狭山市・狭山市教育委員会

目次

第1章 総論

第1節 第3次計画の策定にあたって	1
1. 計画策定の趣旨	1
2. 計画の位置づけ	2
3. 計画の期間	2
4. 計画の対象	3
5. SDGsとの関連	3
第2節 第2次計画における取組状況と課題	4
1. 主な取組状況	4
2. 目標の達成状況	8
3. アンケート調査からみる現状	11
4. 今後の課題	17
第3節 第3次計画の基本的な考え方	18
1. 基本方針	18
2. 基本目標	18
3. 成果目標	19
4. 施策の体系	21

第2章 各論

基本目標Ⅰ 家庭・地域・学校における子どもが読書に親しむ機会と環境の充実	23
1. 家庭における子どもの読書活動の推進	23
2. 地域における子どもの読書活動の推進	25
3. 学校などにおける子どもの読書活動の推進	29
4. ボランティアや団体との連携の推進	32
5. 図書館と学校との連携の推進	34
基本目標Ⅱ 子どもの読書活動に関する啓発・広報の推進	35
1. 読書活動の啓発・広報の推進	35
2. 子どもに薦めたい本の普及	37

第3章 計画推進

1. 計画の推進体制	39
2. 計画の進行管理	39

資料編

子どもの読書活動の推進に関する法律	43
計画の策定経過	46
読書に関するアンケート結果（児童・生徒）	47
読書に関するアンケート結果（保護者）	55
読書に関するアンケート結果の比較（児童・生徒）	60
読書に関するアンケート結果の比較（保護者）	64

第1章 総論

第1節 第3次計画の策定にあたって

1. 計画策定の趣旨

子どもにとって読書活動は、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身につけていく上で欠くことのできないものです。

しかしながら、少子高齢化、DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策による新しい生活様式など、社会状況の変化により、子どもを取り巻く環境もまた大きく変化しており、特にインターネットやSNS、スマートフォンなどメディアの発達・普及を背景として、「読書離れ」が国や埼玉県の実態把握・調査などで指摘されています。

国では、平成13年に制定された「子どもの読書活動の推進に関する法律」に基づき、平成14年に「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」を策定し、以降改定を重ね、現在は平成30年度から令和4年度まで第四次の計画となっています。第四次の計画では、特に高校生の不読率に着目し、「発達段階に応じた取組により、読書習慣を形成」することや「友人同士で行う活動等を通じ、読書への関心を高める」、「情報環境の変化が子供の読書環境に与える影響に関する実態把握・分析」を主なポイントとして挙げています。

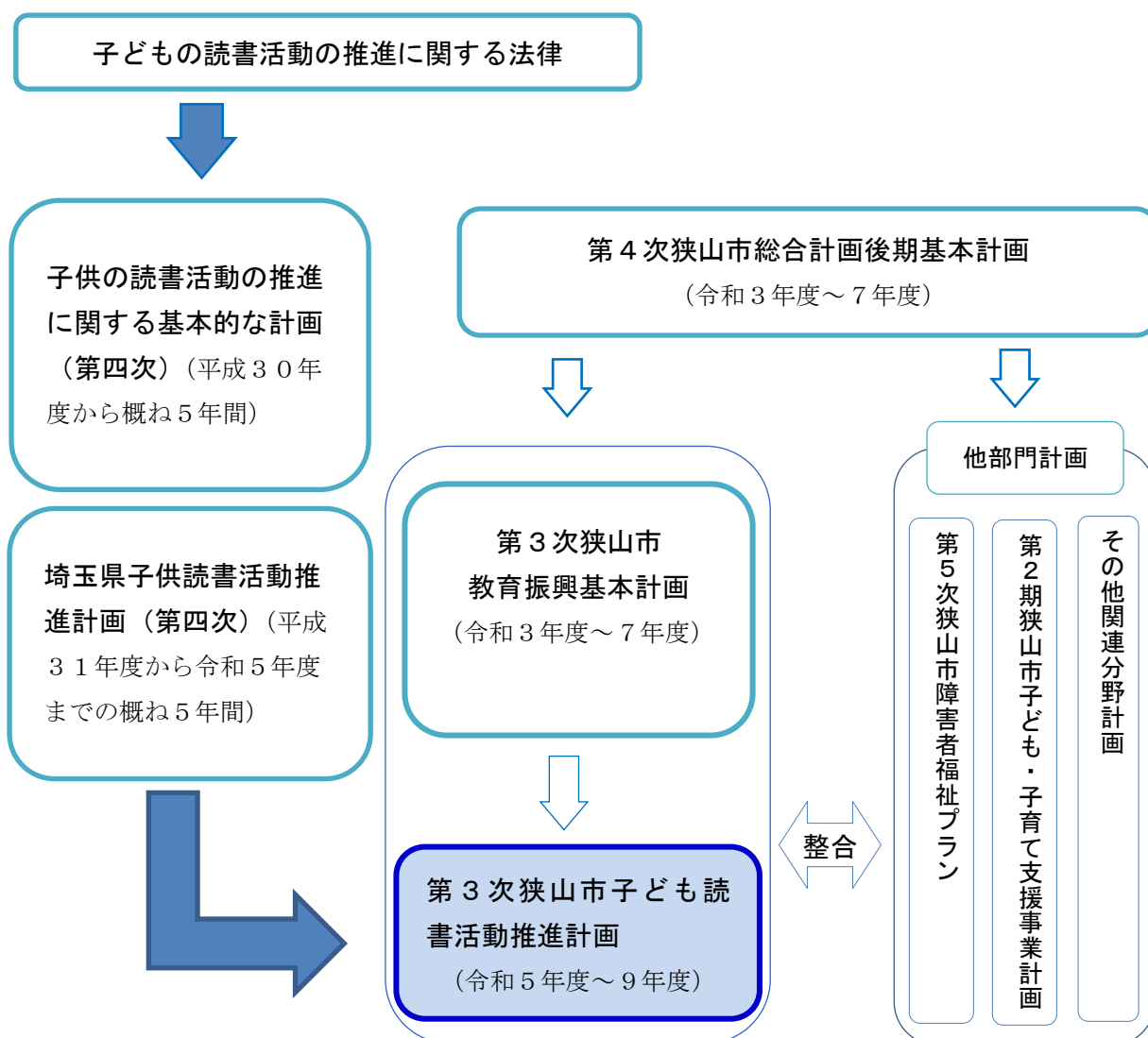
埼玉県では、平成16年に「埼玉県子ども読書活動推進計画」を策定し、現在は平成31年度から令和5年度までの第四次計画のもとに、子どもの読書活動を推進しています。第四次の計画では、「すべての子供たちに本との出会いを」を基本方針とし、子どもの読書活動の習慣化を図り、すべての子どもが本を読む楽しさや喜びを体験できることを目指した41の主な取り組みを示しています。

本市では、平成25年度に「狭山市子ども読書活動推進計画」を策定し、平成30年度からは第2次計画のもとに、子どもの読書活動を推進しています。計画期間が令和4年度をもって満了となることから、令和5年度を初年度とする「第3次狭山市子ども読書活動推進計画」を策定することにより、引き続き、子どもの読書活動を推進しようとするものです。

2. 計画の位置づけ

本計画は、子どもの読書活動の推進に関する法律第9条第2項に基づく計画として、国の「子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」（第四次）や「埼玉県子供読書活動推進計画」（第四次）を参酌して策定したものです。

また、本市の上位計画である「第4次狭山市総合計画後期基本計画」及び「第3次狭山市教育振興基本計画」のほか、関連する他部門の個別計画との整合を図ったものです。



3. 計画の期間

本計画の期間は、令和5年度から9年度までの5年間とします。なお、社会情勢などの変化に応じて、必要な見直しを行うものとします。

4. 計画の対象

本計画は、子ども（概ね18歳以下の者をいう。以下同じ。）と子どもの読書活動に関わる大人を対象とします。

5. SDGsとの関連

平成27年に国際連合サミットにおいて、持続可能でよりよい世界を目指す2030アジェンダが採択され、この中に持続可能な開発目標（SDGs）として17の目標と169のターゲットが掲げられました。社会・経済・環境上の様々な課題に世界各国の市民・企業・行政が協働して取り組み、地球上の「誰一人取り残さない」取り組みが求められています。

「第4次狭山市総合計画後期基本計画」では施策ごとに「関連するSDGsのゴール」を明示しています。また、「第3次狭山市教育振興基本計画」においてもSDGsとの関連性を意識して施策に取り組み、「夢をかなえ 人をつくる 狭山の教育」の振興を図ることとしています。

本計画においては、17の目標のうち「4 質の高い教育をみんなに」及び「17 パートナーシップで目標を達成しよう」を主な目標とし、本計画を推進することにより、SDGsの達成を目指していきます。



持続可能な開発目標（SDGs）17の目標

出典：国際連合広報センター

第2節 第2次計画における取組状況と課題

1. 主な取組状況

第2次計画では、3つの基本目標のもとに9つの推進の柱をたてて、各施策に取り組みました。

なお、令和元年度の後半からは、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策(以下、「新型コロナ対策」という。)を行いながらの実施となりました。

(1) 家庭・地域・学校における子どもが本に親しむ機会の充実

① 家庭における読書機会の充実

- ・入曽地域交流センター、総合子育て支援センター、子育てプレイス、児童館、青い実学園、公民館、図書館では、家庭で行う読み聞かせの楽しさや大切さを伝えるため、未就学児とその保護者を対象に、職員やボランティアによる読み聞かせやおはなし会を実施しました。
- ・入曽地域交流センター、保育所、幼稚園では、家庭での読み聞かせや本の利用を促進するため、絵本や本の貸出しを行いました。新型コロナ対策で貸出しを中止した時期もありました。
- ・総合子育て支援センターでは、「ちゃっぼ通信」の中で本の紹介を行いました。保育所では図書だよりを発行しました。保育所保護者会の賛同を得て、クリスマスに子どもに絵本をプレゼントする事業を行う保育所もありました。
- ・保健センターの「ぱくぱくベビー」(親と子の教室)の中で、図書館職員が乳幼児にお薦め本のリストを配布するとともに、親子のコミュニケーションツールとして絵本活用の効果を体験する機会とし、読み聞かせの大切さや図書館の利用方法をお知らせしました。
- ・幼稚園では、保護者を対象に絵本や読み聞かせについての講演会を開催しました。



読み聞かせ「おたのしみ会」



親と子の教室「ぱくぱくベビー」

② 地域における読書機会の充実

- ・総合子育て支援センター、子育てプレイス、児童館、学童保育室、富士見集会所、公民館では、発達の段階や年齢層に合わせたおはなし会や本の紹介を行いました。また、本に関連づけたクッキング教室、工作教室、お誕生会などのさまざまなイベントを通じて、子どもが本に興味を持つきっかけとなるような取り組みを行いました。
- ・図書館では、小学生向け事業として、おはなし会やブックトーク¹、ビブリオバトル²、工作など様々な事業を実施したほか、相談や質問に対応するレファレンスサービス³を行いました。
- ・新型コロナ対策で図書館が休館となった時期には、子どもの読書活動を支援する方法として、対象年齢に合わせて選んだ本5冊を梱包し「お楽しみパック」として貸出しする事業を実施しました。



おはなし会「クリスマス会」



市民文化祭「おはなし会」

1 ブックトーク

あるテーマに沿って様々なジャンルから選んだ本の内容を紹介し、読書意欲を引き出す活動

2 ビブリオバトル（書評合戦）

参加者が読んで面白いと思った本を一人5分間で紹介し、全員で意見交換を行う。全員の発表後、どの本が一番読みたくなったかを参加者の多数決で選ぶ、本の紹介コミュニケーションゲーム

3 レファレンスサービス

利用者からの資料や情報の求めに応じ、図書館の資料と機能を活用して、資料検索の援助や資料提供を行うサービス

③ 学校などにおける読書活動の充実

- ・ 保育所や青い実学園、幼稚園では、発達の段階や年齢層に合わせた絵本の読み聞かせを行いました。
- ・ 幼稚園では、小学校の図書委員による読み聞かせを行いました。また、新型コロナ対策で保護者が園内に入れなかった時期には、年齢層に合わせて選んだ3～5冊の本を春、夏、冬の長期休暇に貸出しする事業を行いました。
- ・ 小・中学校では、朝読書を推進したほか、図書館が行う学校への団体貸出、ブックトークや図書館利用教育の出前講座、図書館見学、中学生の体験学習などを活用し、読書活動の充実を図りました。また、図書委員会が行う「読書キャンペーン」により読書活動を推進しました。

④ ボランティアや団体との連携の推進

- ・ 入曽地域交流センターや児童館、富士見集会所、公民館、図書館、小・中学校では、ボランティアや団体との連携により読み聞かせやブックトーク、講演会などを実施しました。新型コロナ対策のため、事業を中止したり、ボランティアの受入を見合わせたりした時期もありました。
- ・ 図書館では、読み聞かせなどで使用する図書資料について、ボランティアや団体への貸出しを実施しました。

(2) 子どもの読書活動を推進するための環境の充実

① 身近に本のある環境づくり

- ・ 入曽地域交流センター、総合子育て支援センター、児童館、学童保育室、保健センター、公民館では、図書コーナーを設置し、身近に本を楽しめるよう働きかけました。
- ・ 図書館では、緊急事態宣言による休館中に、子どもの日常を支える学童保育室などへは希望する内容に応じて本を選定して貸出しを行いました。

② 図書館の充実

- ・ 図書館では、児童書の充実を図るとともに、子どもの本や読書活動に関連する質問や相談に対応しました。
- ・ 図書館に親しみを感じてもらえるよう、ボランティアの協力のもと、壁面や窓ガラスに装飾を行いました。
- ・ 図書館がお薦めする本の館内展示を行いました。
- ・ 移動図書館「さみどり号」の運行では、巡回場所の一部を幼稚園や小学校に設置していますが、令和元年度に巡回場所、巡回時間の見直しを行い、

利用の増加が見られました。

③ 学校図書館の充実

- ・学校図書館の蔵書管理などを行う学校図書館司書は、平成28年度は5名、平成29年度は6名、令和2年度には8名配置しました。市内全8校の中学校を拠点とし、担当中学校に週の半分、担当小学校に週1日を目安とした勤務体制により全小・中学校への配置を行いました。
- ・蔵書管理の電算化は、平成29年度は中学校に導入し、令和3年度には小学校も導入をはじめ令和4年度に完了しました。電算化によって蔵書の整理が進み、更に導入後は貸出しや蔵書管理が容易になり、生徒の利用増につながりました。
- ・学校図書館の運営・活動の実務担当者はほとんどの学校で、学校図書館主任と学校図書館司書の2人体制もしくは司書教諭を加えた3人体制となりました。
- ・学校図書館と市立図書館との情報交換会を開催し、その中で図書館から学校図書館に対し資料選定の支援を行いました。
- ・学校図書館の資料で不足するものについては、教諭の希望にあわせて図書館司書が選定する図書館資料の団体貸出を利用しました。

(3) 子どもの読書活動に関する啓発・広報の推進

① 読書活動の啓発・広報の推進

- ・保育所、社会教育課、公民館、図書館、幼稚園、小・中学校では、ポスター掲示や各種イベントを通じて「家庭読書の日⁴」、「子ども読書の日⁵」、「こどもの読書週間⁶」の周知に努めました。

⁴ 家庭読書の日

「国民読書年」であった平成22年に、家庭での親子のふれあいなどを目的に、狭山市教育委員会が毎月23日を「家庭読書の日」と定めた

⁵ 子ども読書の日

平成13年に施行された「子どもの読書活動の推進に関する法律」で毎年4月23日を「子ども読書の日」と定めた

⁶ こどもの読書週間

公益社団法人読書推進運動協議会が主催し、毎年4月23日～5月12日に実施している

② 子どもに薦めたい本の普及

- ・児童館、学童保育室、公民館、小学校では、図書館が団体貸出用に用意している「子どものときに読みたい本100冊」（以下、「さやまの100冊」⁷という。）パックを活用しました。小・中学校ではさやまの100冊を校内展示や図書館だよりなどで紹介し、読書の楽しさや意義を体得できるよう働きかけを行いました。
- ・図書館では、年齢層に合わせた児童・生徒向けの広報紙の発行や「としょかんがおすすめする はじめてのえほん」の改訂のほか、毎月おすすめの絵本やYA（ヤングアダルト）向けの本の紹介、展示を行いました。



読書週間展示

2. 目標の達成状況

第2次計画で掲げた目標の達成状況は、以下のとおりです。

なお、(3)については、令和3年度末時点での統計数値を、(1)(2)(4)(5)については、令和3年10月に実施した、市立の小学2年生、小学5年生、中学2年生の児童・生徒、及び小学5年生の保護者を対象とした「読書に関するアンケート」（以下、「アンケート調査」という。）の数値をもとに比較を行っています。

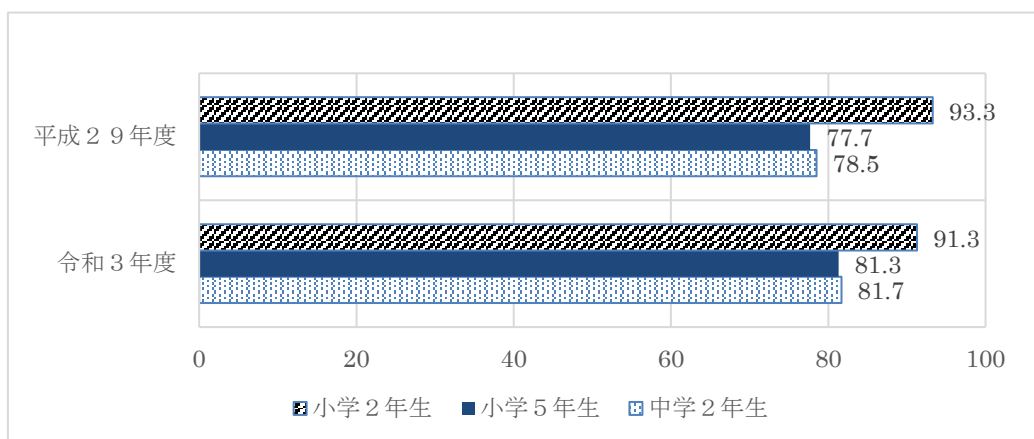
アンケート調査の結果については資料編（P47から）をご覧ください。

⁷ さやまの100冊

「国民読書年」であった平成22年に、狭山市教育委員会が、子どものときに読んでほしい本を、小学校低学年向け、中学年向け、高学年向け及び中学生向けの4つの年齢層に分け、それぞれ25冊ずつ選定したもの

(1) 「本を読むことが好き」あるいは「どちらかといえば好き」と答えた子どもの割合

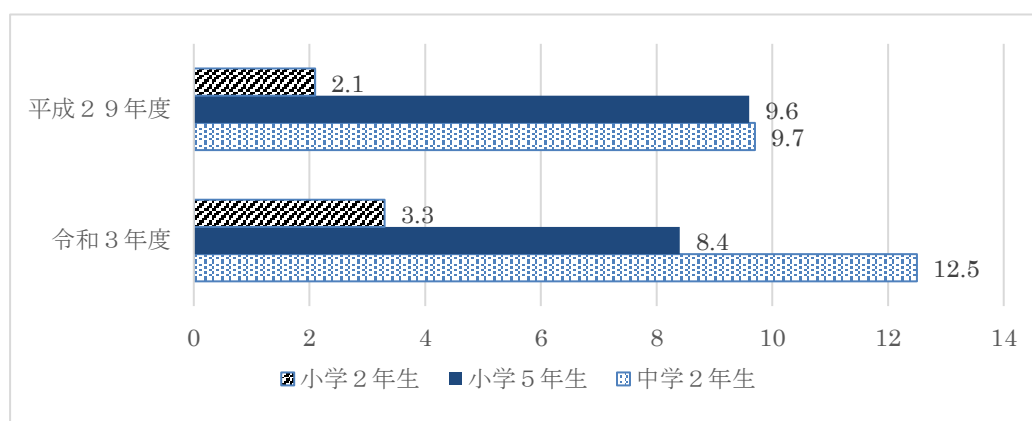
	平成29年度	令和3年度	令和4年度目標
小学2年生	93.3%	91.3%	98.0%
小学5年生	77.7%	81.3%	88.0%
中学2年生	78.5%	81.7%	84.0%



平成29年度と比べ、「本を読むことが好き」、「どちらかといえば好き」と回答した小学5年生は3.6ポイント、中学2年生は3.2ポイント増えてきましたが、小学2年生は2ポイント減少となりました。いずれの学年においても目標達成には至りませんでした。

(2) ひと月に本を読む冊数が「0冊」と答えた子どもの割合

	平成29年度	令和3年度	令和4年度目標
小学2年生	2.1%	3.3%	1.0%
小学5年生	9.6%	8.4%	8.0%
中学2年生	9.7%	12.5%	8.0%



平成29年度と比べ、本を1冊も読まない子どもの割合は、小学5年生では1.2ポイントの減少となりましたが、小学2年生は1.2ポイント、中学2年生は2.8ポイントの増加となりました。いずれも目標達成には至りませんでした。

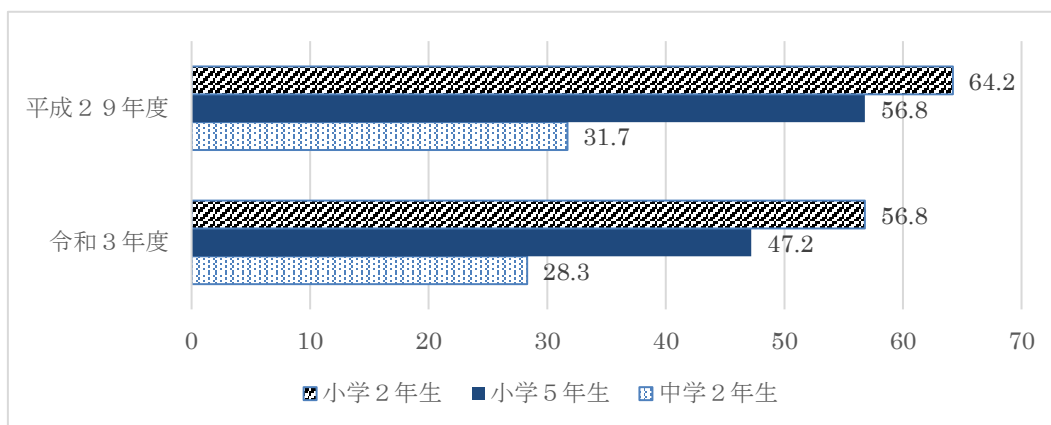
(3) 18歳以下人口一人当たりの図書館所蔵児童書貸出冊数

平成29年度	令和3年度	令和4年度目標
14.0冊	13.0冊	15.0冊

平成29年度と比べ、18歳以下人口一人当たりの貸出し数は1.0冊の減となりました。目標達成には至りませんでした。

(4) 市立図書館で本を「月に1回以上」あるいは「年に何回かは」借りると答えた子どもの割合

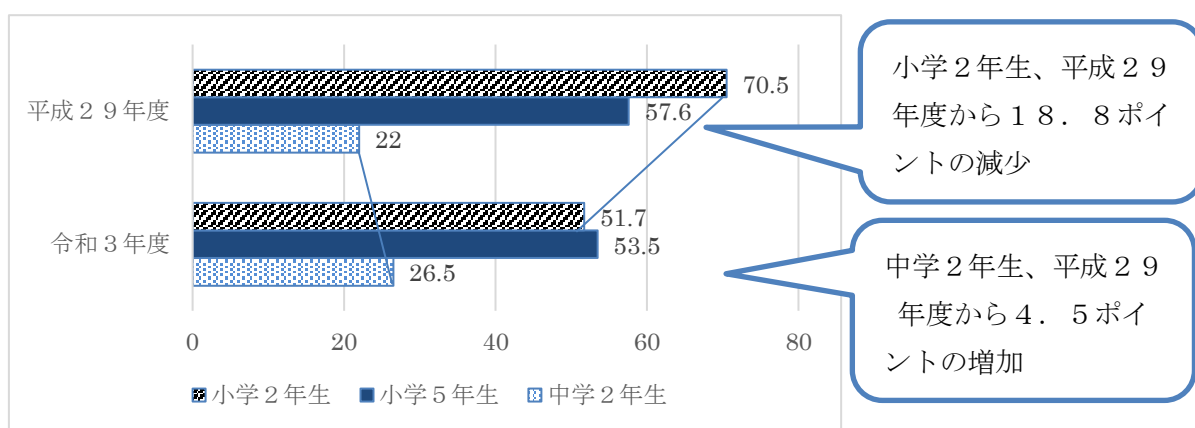
	平成29年度	令和3年度	令和4年度目標
小学2年生	64.2%	56.8%	68.0%
小学5年生	56.8%	47.2%	60.0%
中学2年生	31.7%	28.3%	34.0%



図書館の利用状況では、平成29年度と比べ、どの学年も減少となり目標達成には至りませんでした。新型コロナ対策のため、臨時休館があったことが要因と推測されます。

(5) 休み時間や放課後に学校図書館を「よく利用する」あるいは「ときどき利用する」と答えた子どもの割合

	平成29年度	令和3年度	令和4年度目標
小学2年生	70.5%	51.7%	74.0%
小学5年生	57.6%	53.5%	61.0%
中学2年生	22.0%	26.5%	27.0%



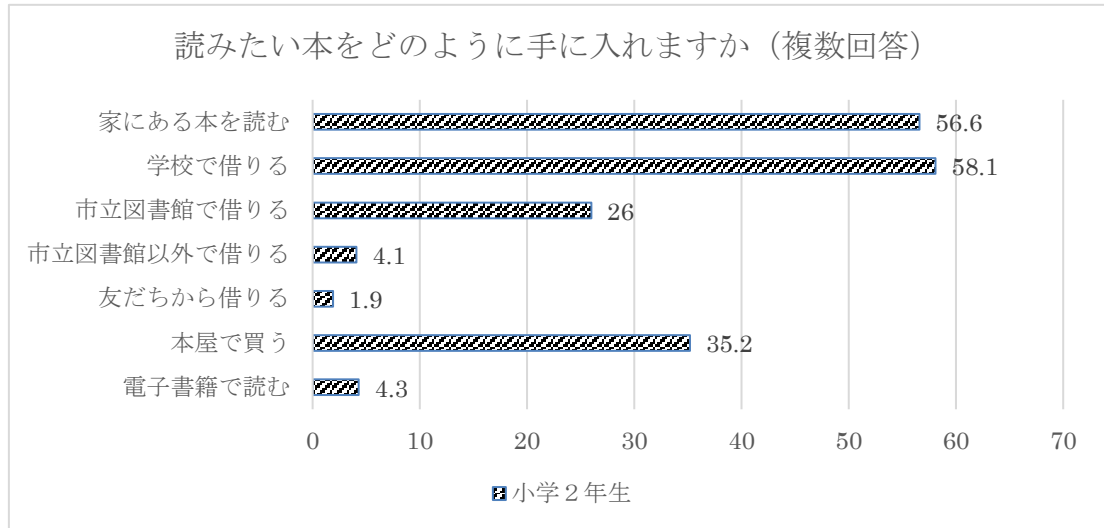
学校図書館の利用状況では、平成29年度と比べ、小学2年生で18.8ポイント、小学5年生では4.1ポイントの減少となりました。目標達成には到りませんでした。中学2年生では4.5ポイントの増加となりました。

3. アンケート調査からみる現状

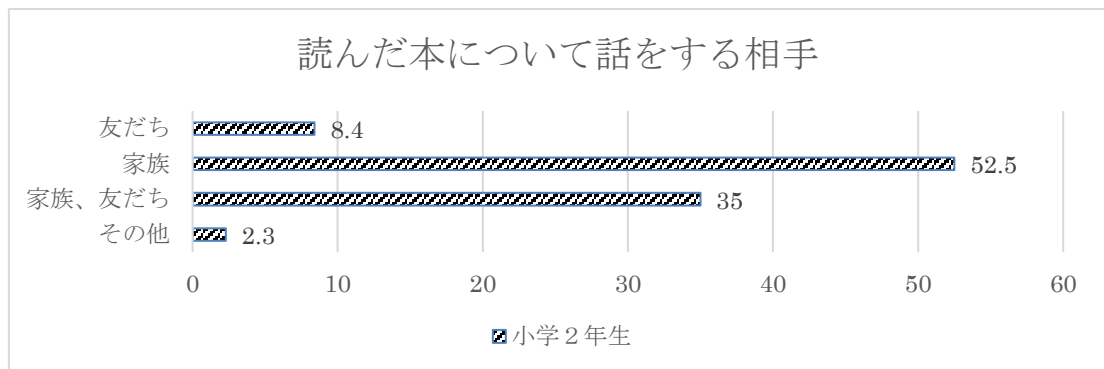
アンケート調査からみる主な状況は次のとおりです。

(1) 狭山市の小学2年生へのアンケート調査では、「読みたい本をどのようにして手にいれますか」の回答に、「学校で借りる」(58.1%)、「家にある本を読む」(56.6%)、「本屋で買う」(35.2%)とあり、「読んだ本について話をする相手」については、「家族」(52.5%)、「家族、友だち」(35.0%)、「友だち」(8.4%)とあります。このことから家や学校にある本を読み、家族と本について話をする割合が高いことがわかります。

読書に関するアンケート結果（児童・生徒）より



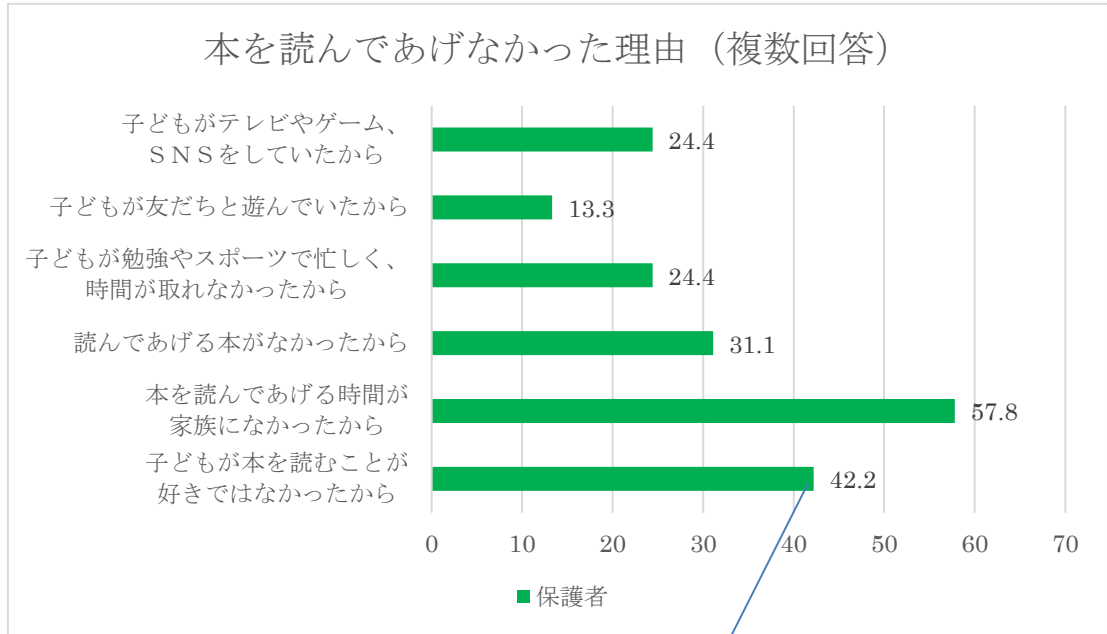
質問5より



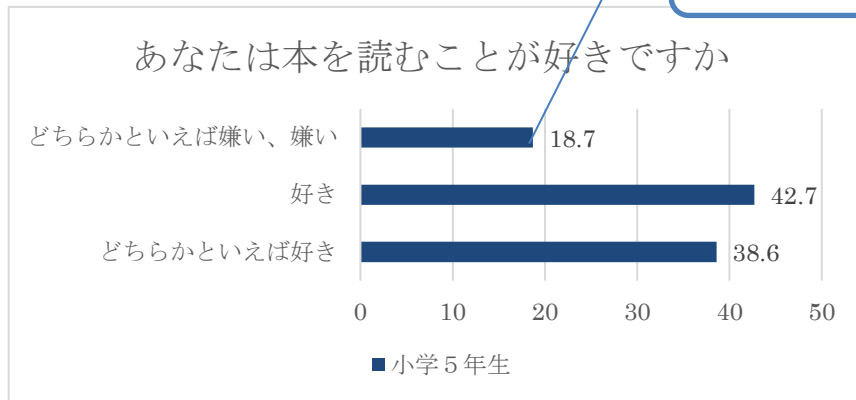
質問13より

(2) 保護者へのアンケート調査では、子どもに本を読んであげなかった理由として、42.2%の保護者が「子どもが本を読むことが好きではなかったから」をあげ、平成29年度の調査よりも割合が高くなっています。一方、小学5年生への質問では本を読むことは「どちらかといえば嫌い」「嫌い」を合わせると18.7%であり、そこには20ポイント以上の開きが見られます。

読書に関するアンケート結果（保護者）質問3より



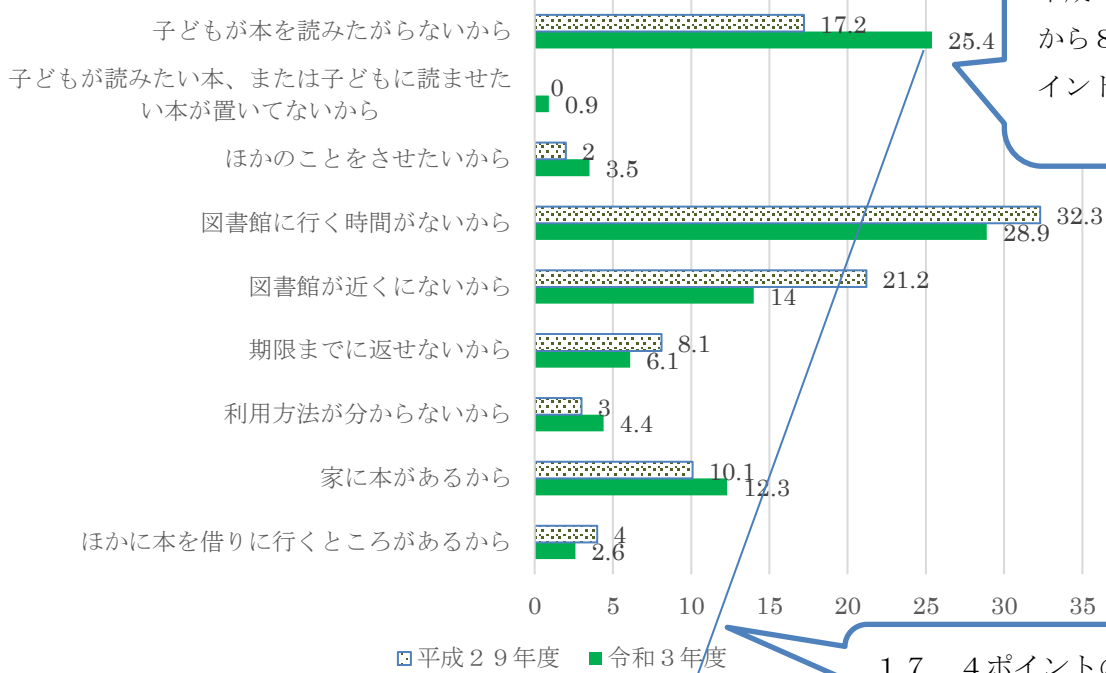
20ポイント以上の開きがある



読書に関するアンケート結果（児童・生徒）質問1より

- (3) 保護者へのアンケート調査では、子どもを図書館に連れて行かない（行かなかった）理由として「子どもが本を読みたがらないから」の回答が25.4%となり、平成29年度の調査の17.2%から8.2ポイント増加しています。一方、小学5年生への同様の質問では「本を読みたくないから」が8.0%となり、平成29年度の調査の17.7%から9.7ポイント減っています。このことから、保護者が思うよりも、子どもは本に興味を持っていることが推測されます。

保護者 市立図書館に連れて行かない理由（複数回答）

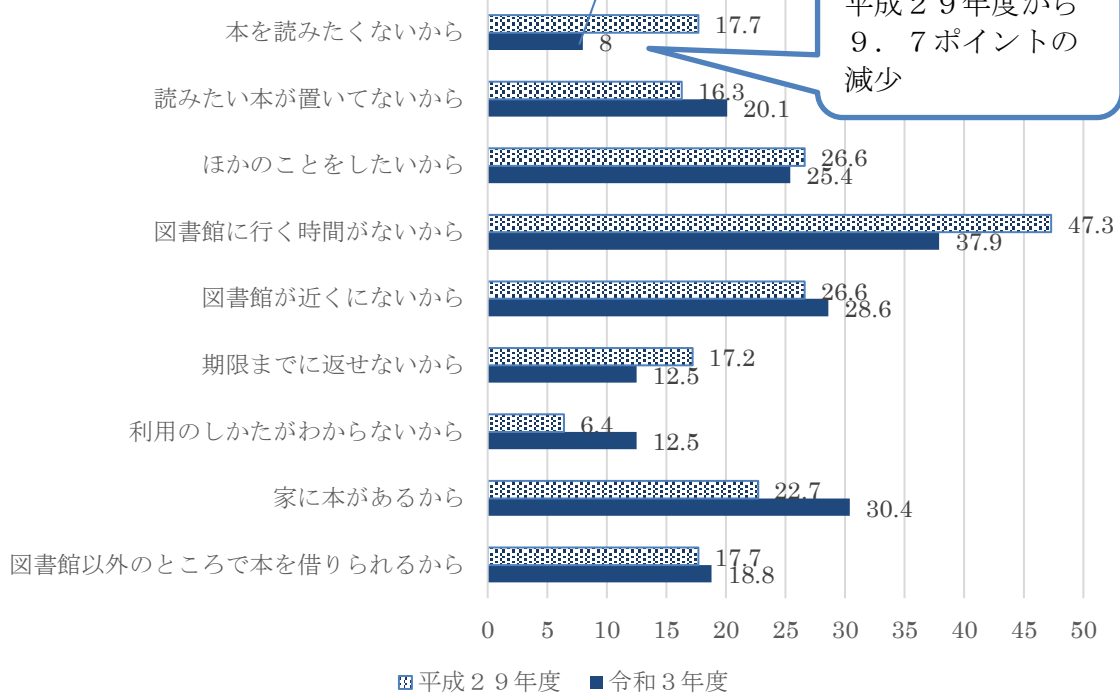


平成29年度から8.2ポイントの増加

17.4ポイントの開きがある

読書に関するアンケート結果（保護者）質問7より

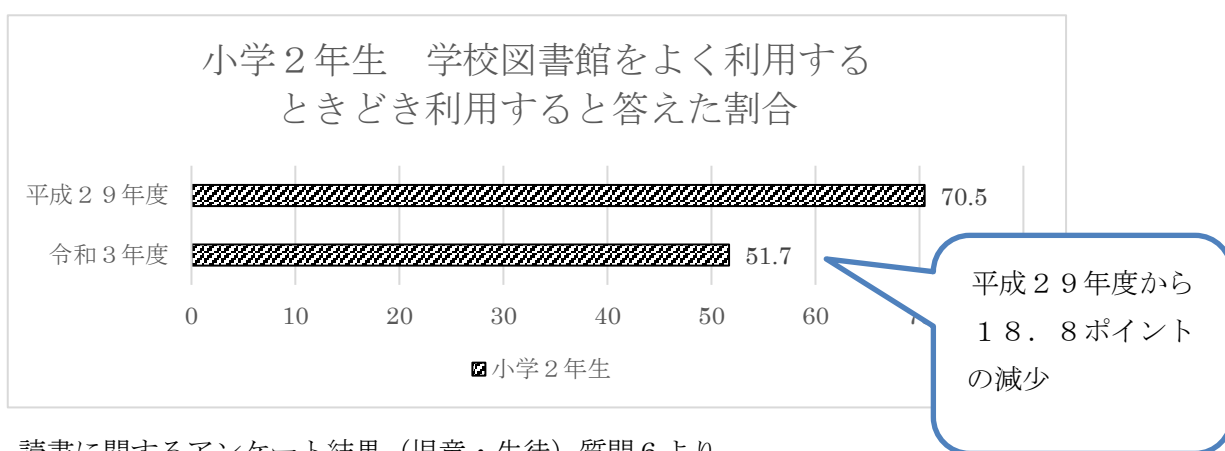
小学5年生 市立図書館で本を借りない理由（複数回答）



平成29年度から9.7ポイントの減少

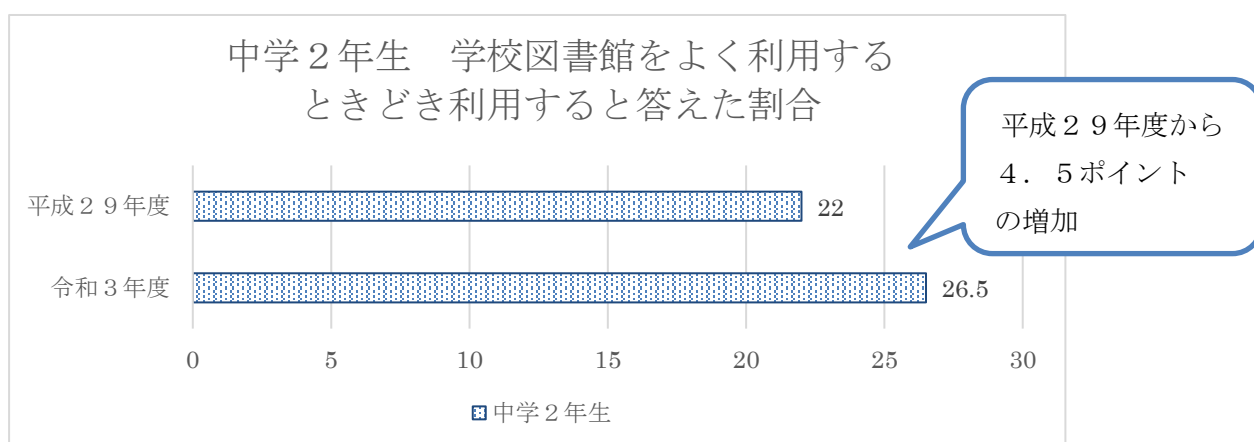
読書に関するアンケート結果（児童・生徒）質問10より

- (4) 小学生のアンケート調査では、読書活動の拠点となる図書館や学校図書館を利用すると答えた子どもの割合が減少しています。特に学校図書館を利用する割合は、小学2年生で18.8ポイント減少しました。その要因として、新型コロナ対策の影響によっては異学年交流を避けるために学校図書館の開館時間を制限したり、共用する本の貸出しを控えたりするなどの対応をしたことや、移動図書館「さみどり号」の巡回が行えない時期があったこと、図書館が休館したことなどにより、学校や地域の図書館に行く機会や意欲的に図書館を利用する意識が低下したことも要因の一つと推測できます。



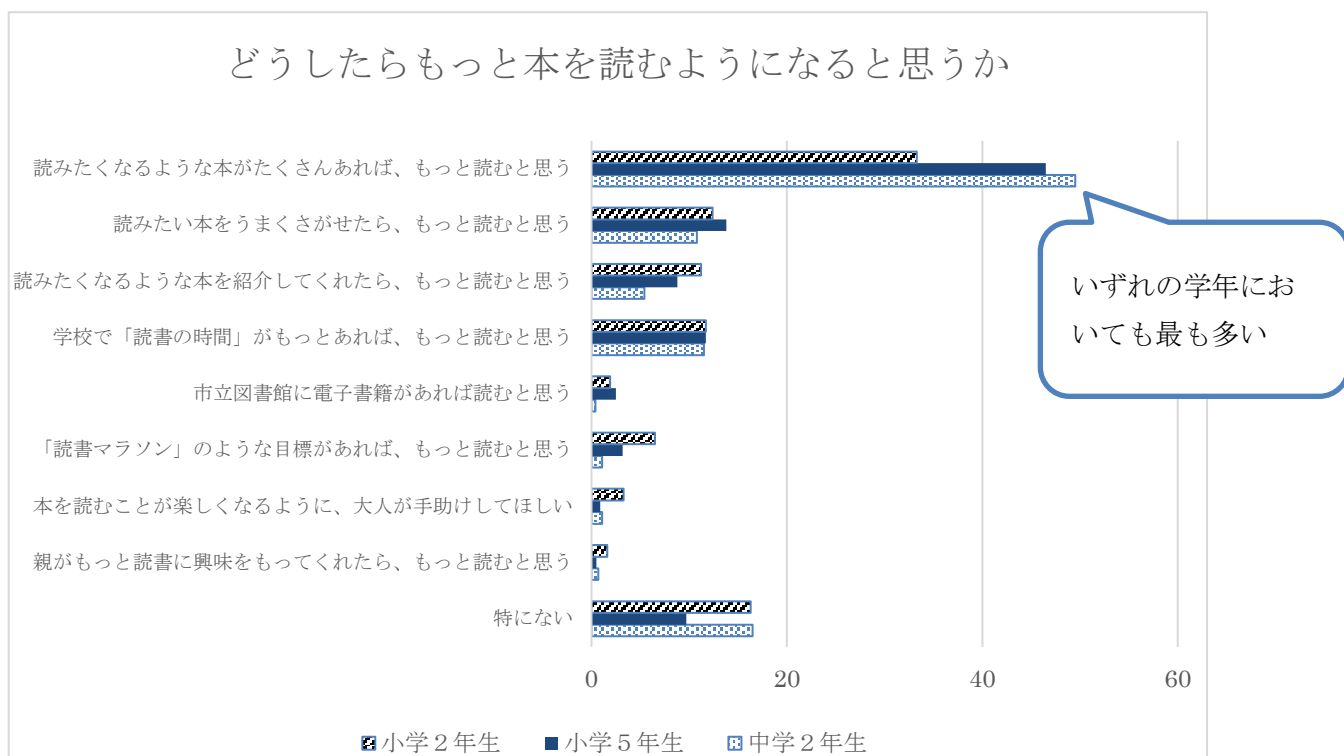
読書に関するアンケート結果（児童・生徒）質問6より

- (5) 中学2年生のアンケート調査では、学校図書館を利用すると答えた子どもの割合が増加しています。中学校は学校図書館司書が1人ずつ配置され、週の半分は人の手が入り、蔵書の整理と電算化が進んだことで学校図書館の環境が良くなったことや図書委員の活動が活発になったことが利用の増加につながったと推測されます。



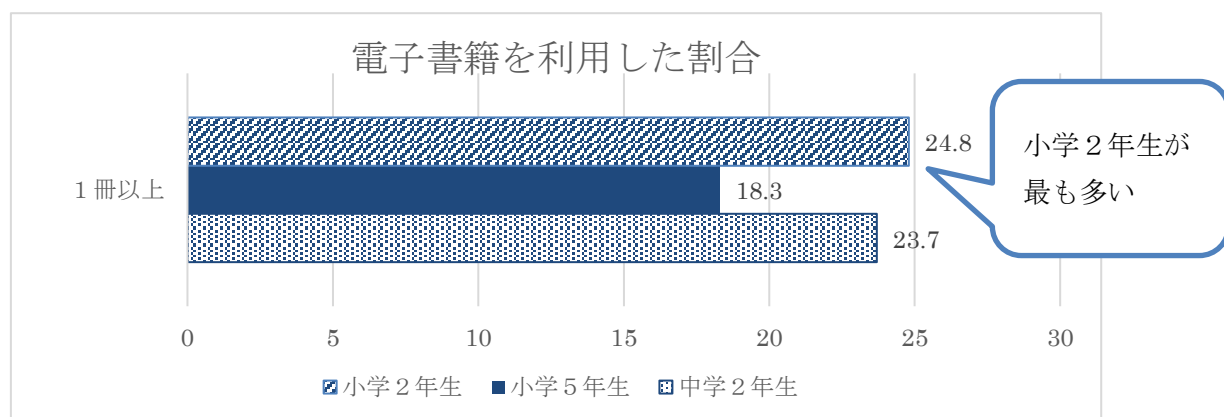
読書に関するアンケート結果（児童・生徒）質問6より

(6) アンケート調査では、「あなたは、どうしたらもっと本を読むようになると思うか」の問いに、「読みたくなるような本がたくさんあれば、もっと読むと思う」がいずれの学年においても最も多くなっています。



読書に関するアンケート結果（児童・生徒）質問11より

(7) 電子書籍を利用したと答えた割合は、小学2年生が最も多くなっています。どの学年も約7から8割は利用しておらず、読んでいる子どもも、その冊数は1冊から2冊と答える割合が高い結果となりました。



読書に関するアンケート結果（児童・生徒）質問4より

4. 今後の課題

国及び埼玉県の動向、第2次計画の実施状況、アンケート調査からみる現状などを踏まえた課題について、主なものは、次のとおりです。

(1) 子どもが読書に親しむ機会と環境の充実

- ・読書を習慣として身につけるため、子どもが身近に本に親しめる機会や、子どもが読みたい本と出会える環境を充実させることが必要です。
- ・保護者が思うより、子どもは本に興味を持っていることから、家庭における読書活動への理解の促進が必要です。
- ・読書活動の拠点となる図書館や小学校の学校図書館を利用する子どもの割合が減少していることから、利用しやすい、魅力のある図書館環境を整備することが必要です。
- ・子どもが身近に本に親しむために、あらゆる場面で、多くの施設において適切なサービスを提供することが必要です。
- ・中学2年生の学校図書館の利用率の増加は、学校図書館司書が週の半分を学校図書館業務に従事した効果と考えられることから、小・中学校の学校図書館司書の配置を更に充実させることが必要です。
- ・読書活動を推進していくためには、子どもと本をつなぐ活動をしているボランティアや団体の協力が不可欠であり、こうした団体などとの連携や活動の支援を充実させることが必要です。

(2) 子どもの読書活動に関する啓発・広報の推進

- ・子どもの読書活動を推進するためには、子どもの読書活動の意義や重要性について、保護者、保育士、図書館職員や教職員など子どもの周りにいる大人の理解と関心を深めることが必要です。
- ・「家庭読書の日」、「子ども読書の日」、「こどもの読書週間」などの機会を活かしながら、読書活動の推進を図ることが必要です。
- ・子どもに推奨したい本の紹介や、図書館や学校図書館の利活用について積極的にPRしていくことが必要です。

第3節 第3次計画の基本的な考え方

1. 基本方針

子どもの読書活動の推進に関する法律の基本理念、国及び埼玉県の策定した子ども読書活動推進計画、第2次計画での取組状況と課題を踏まえ、引き続き、次の基本方針に基づき子どもの読書活動を推進していきます。

狭山市のすべての子どもが、その成長過程において出会うべき本と出会い、読書の楽しさや喜びを実感することにより、自ら進んで読書に親しみ、生涯にわたる読書活動の礎をつくり、人生をより豊かなものにすることを目指します。

2. 基本目標

基本目標Ⅰ 家庭・地域・学校における子どもが読書に親しむ機会と環境の充実

すべての子どもが、年齢や発達段階に合わせて読書の楽しさや喜びを経験することができるよう、家庭、地域や学校など様々な場において、子どもが本に親しむ機会を充実します。また、子どもが、身近に読書に親しむことができるよう、図書館や学校図書館などにおいて、図書資料、設備や人材を含む環境を充実します。

基本目標Ⅱ 子どもの読書活動に関する啓発・広報の推進

子どもの読書活動を推進するためには、子どもへの働きかけはもとより、保護者など周りの大人が読書の意義や必要性についての理解を深めることが求められることから、様々な場面で啓発や広報を推進します。

3. 成果目標

本計画の成果を測るため、最終年度の目標を次のとおり設定します。

- (1) 「本を読むことが好き」あるいは「どちらかといえば好き」と答えた子どもの割合

	令和3年度	令和9年度目標
小学2年生	91.3%	94.0%
小学5年生	81.3%	84.0%
中学2年生	81.7%	83.0%

- (2) ひと月に本を読む冊数が「0冊」と答えた子どもの割合

	令和3年度	令和9年度目標
小学2年生	3.3%	1.0%
小学5年生	8.4%	6.0%
中学2年生	12.5%	9.0%

- (3) 18歳以下人口一人当たりの図書館所蔵児童書貸出冊数

令和3年度	令和9年度目標
13.0冊	14.0冊

- (4) 市立図書館で本を「月に1回以上」あるいは「年に何回かは」借りると答えた子どもの割合

	令和3年度	令和9年度目標
小学2年生	56.8%	66.0%
小学5年生	47.2%	61.0%
中学2年生	28.3%	32.0%

- (5) 休み時間や放課後に学校図書館を「よく利用する」あるいは「ときどき利用する」と答えた子どもの割合

	令和3年度	令和9年度目標
小学2年生	51.7%	71.0%
小学5年生	53.5%	58.0%
中学2年生	26.5%	28.0%

※目標値の設定について

- ① (1) (2) (4) (5) は、平成23年以降に実施したアンケート結果のうち、最も良い数値を令和9年度の目標値と設定しています。
- ② (5) 中学2年生は令和3年度実績値26.5%が最も良い結果であったことから、前回調査からの増加ポイント（平成28年度から令和3年度が1.6ポイント増）を考慮し、1.5ポイント増としました。
- ③ (3) は平成29年度から令和3年度までの5年間のうち、最も良い数値を令和9年度の目標値と設定しています。

4. 施策の体系

2つの基本目標のもとに、7つの推進の柱と、18の施策を設定します。

なお、計画期間における重点的な取り組みを設けます。（網掛け項目）

基本目標Ⅰ 家庭・地域・学校における子どもが読書に親しむ機会と環境の充実

推進の柱	施策の内容
1. 家庭における子どもの読書活動の推進	(1) 子どもの読書活動に対する家庭の理解の促進
	(2) 家庭における子どもの読書活動の促進
2. 地域における子どもの読書活動の推進	(1) 図書館資料の充実
	(2) 図書館における子どもが利用しやすい環境の整備
	(3) 図書館における子ども向けサービスの充実
	(4) 図書館における職員の資質の向上
	(5) 児童館などにおける子ども向けサービスの充実
	(6) 児童館などにおける子ども向け図書コーナーの充実
3. 学校などにおける子どもの読書活動の推進	(1) 学校図書館資料の充実
	(2) 学校図書館の環境整備
	(3) 学校における読書指導の充実
	(4) 学校図書館の人的配置の充実
	(5) 保育所・幼稚園などにおける読書活動の充実
4. ボランティアや団体との連携の推進	(1) ボランティアや団体との連携事業の充実
	(2) ボランティアや団体の活動の支援
5. 図書館と学校との連携の推進	(1) 図書館と学校との連携事業の充実

基本目標Ⅱ 子どもの読書活動に関する啓発・広報の推進

推進の柱	施策の内容
1. 読書活動の啓発・広報の推進	(1) 子どもの読書活動に関する啓発・広報の推進
2. 子どもに薦めたい本の普及	(1) 子どもに薦めたい本に関する情報発信の充実

第2章 各論

基本目標Ⅰ 家庭・地域・学校における子どもが読書に親しむ機会と環境の充実

1. 家庭における子どもの読書活動の推進

【現状と課題】

乳幼児期から、身近な大人に絵本を読んでもらうことは、子どもの成長・発達に有意義なものとなっています。乳幼児期からの読み聞かせが、子どもの心の発達や親子の信頼関係形成などに役立つということを知らせ、絵本を日常的なコミュニケーションツールとして取り入れてもらうことを目指しています。

狭山市では「ばくばくベビー」（親と子の教室）で、「としょかんがおすすめする はじめてのえほん」を紹介したり、未就学児と保護者を対象としたおはなし会のほか、子どもの読書に関する講演会などを実施したり、子どもの読書活動について保護者からの質問や相談に応じています。

アンケートの結果からは、保護者が思うより子どもは読書に興味を持っていると思われます。また、家に本があるか、読んだ本について家族と話す機会があるか、といった家庭環境が子どもの読書活動に影響を与えることが伺えます。

今後も、子どもの読書活動の意義や必要性について家庭の理解を促進するとともに、読み聞かせをしたり、子どもと一緒に本を読んだり、本に親しむことができるよう、家庭における子どもの読書活動を支援していく必要があります。

【施策の内容】

重点

(1) 子どもの読書活動に対する家庭の理解の促進

子どもが幼いころから本と親しみ、読書習慣を身につけるには、保護者が積極的に子どもに働きかけることが必要であることから、子どもの読書活動の意義や必要性について家庭の理解を促進します。

《主な取り組み》

○おはなし会の充実（入曽地域交流センター、総合子育て支援センター、子育てプレイス、児童館、公民館、図書館）

保護者に読み聞かせの楽しさ、大切さを知ってもらうため、親子で参加できるおはなし会を実施します。

○講演会などの実施（入曽地域交流センター、総合子育て支援センター、公民館、図書館、幼稚園）

保護者を対象として、読み聞かせや読書の大切さなどについて学ぶ講演会や講座を実施します。

○親と子の教室の充実（保健センター、図書館）

保健センターが実施する「ぱくぱくベビー」（親と子の教室）の中で、保護者に「本との出会い・読み聞かせ」の大切さを伝えます。

また、「こんにちは赤ちゃん訪問」の際に図書館の利用案内「えほんのある暮らし」を配布します。



おはなし会 「ちびちびぞうクラブ」



おはなし会
「ちびぞう クリスマススペシャル」

（２）家庭における子どもの読書活動の促進

子どもが本に親しむ気持ちを育めるように、子どもの発達の段階や年齢層に応じた働きかけが必要です。お薦めの本の紹介や貸出し、読書活動に関する保護者からの相談への対応などにより、家庭での読書活動を促進します。

《主な取り組み》

○図書の貸出事業の実施（入曽地域交流センター、保育所、公民館、図書館、幼稚園）

家庭での読み聞かせや本の利用を促進するため、図書の紹介や貸出しを行います。

○親と子の教室の充実（保健センター、図書館）

図書館が選定した絵本のリスト「としょかんがおすすめする はじめてのえほん」を配布し、絵本について実際に読み聞かせしながら紹介するほか、図書館の親子での利用を呼びかけます。

○レファレンスサービスの充実（図書館）

子どもの読書活動に関する様々な質問や相談への対応を充実します。

2. 地域における子どもの読書活動の推進

【現状と課題】

子どもが身近な場所で、読書の楽しさに出会うきっかけをつくるには、地域の役割が重要です。教育・福祉などに関わる関係機関がそれぞれに、おはなし会や本を活用した事業の実施など、子どもが本に親しむことができる活動を行っています。多くの本との出会いを経験し、読書が生活の中に習慣として定着するよう、これらの取り組みを継続的に実施することが必要です。実施にあたっては、相互に連携・協働することが必要です。

【施策の内容】

(1) 図書館資料の充実

子どもが本に親しみ、読書をとおして、子どもの成長を後押しすることができるよう、子どもの声や社会状況、蔵書構成などを踏まえながら、図書館資料の充実を図ります。

《主な取り組み》

○図書館資料の充実（図書館）

発達の段階や年齢層などに留意し、子どもの興味を広げていけるよう、本の選定や収集に努め、図書館資料を充実します。

○読書活動の困難な子どもへの支援（図書館）

点字絵本、大活字本やデイジー⁷、LLブック⁸、外国語絵本などの収集に努め、障がいがある、母語が日本語でないなど、様々な状況にある子どもの読書活動を支援します。

○電子書籍の導入検討（図書館）

電子書籍の出版状況や利用状況を確認しながら、現行の図書館システムの更新時などに導入を検討します。

併せて、現在、無料で読むことができる文学作品などの電子書籍を掲載しているサイトや、そのほかの電子書籍が集積されたサイト（例：文部科学省の「子供の学び応援サイト」（『子供』の表記は原文のまま））などへのリンク集を作成し、図書館の公式ホームページ上で紹介します。

⁷ デイジー

普通の印刷物を読むことが困難な人のためのデジタル録音図書のこと

⁸ LLブック

誰もが読書を楽しめるように工夫してつくられた、やさしく読みやすい本のこと

(2) 図書館における子どもが利用しやすい環境の整備

子どもが図書館に親しみを覚え、自分で資料を探ることができるよう資料の分類や配置の工夫、蔵書検索システムへの子ども向け画面の用意を続けるほか、室内装飾をするなど、子どもが利用しやすい環境づくりに努めます。また、図書館から離れた地域の方々に図書館サービスを提供するための移動図書館「さみどり号」について、子どもにも利用しやすいよう、巡回場所や時間の工夫を行います。

《主な取り組み》

○児童書エリアの充実（図書館）

室内装飾など子どもが親しみやすい環境づくりや読みたい本に出会えるように配置や展示を工夫します。

○移動図書館「さみどり号」の運行（図書館）

図書館から離れた地域の子どもの利便性を向上させるため、巡回場所として一部の幼稚園や小学校などを設定し、移動図書館「さみどり号」を運行します。



移動図書館「さみどり号」



窓ガラス装飾（絵 坂口チッチ氏）

(3) 図書館における子ども向けサービスの充実

子どもの読書活動の拠点となる図書館では、子どもが本に親しみ、楽しみながら興味を広げていけるよう支援するため、おはなし会などの事業や、お薦め本の紹介を行うほか、子どもからの相談に応じるなど、子ども向けサービスを充実します。

《主な取り組み》

○おはなし会などの充実（図書館）

子どもの発達の段階や年齢層に合わせ、様々な機会を捉えながらおはなし会やブックトーク、工作教室など、子どもと本をつなぐ事業を充実します。また、子ども同士での本の紹介やコミュニケーションができるような機会づくりに努めます。

○お薦め本の展示（図書館）

子どもの年齢層を意識しながら、様々なテーマに合わせて選定したお薦め本を紹介展示します。

○レファレンスサービスの充実（図書館）

読書活動に関する子どもからの質問や相談への対応を充実します。



自然体験と本の楽しさを味わうイベント
「ネイチャーゲーム」



ブックトーク 「でかぞうクラブ 君に
ぴったりの本を見つけよう」

(4) 図書館における職員の資質の向上

子どもの調べ学習の本、読み聞かせの絵本についてなど、子ども向けの資料の選定やレファレンスに適切に対応できるよう、職員の資質の向上を図ります。

《主な取り組み》

○職員研修の充実（図書館）

子ども向けサービスの充実を図るため、国や県の研修、埼玉県図書館協会主催の児童サービス研修会に参加するほか、機会を捉えて各種研修に参加します。子どもの発達や、子どもを取り巻く社会状況などへの理解を深められるよう、職員研修を充実します。

重点

(5) 児童館などにおける子ども向けサービスの充実

児童館、学童保育室や公民館など地域の身近な施設において、おはなし会の開催や本を活用した事業の実施など、子どもと本をつなぐ事業を充実します。

《主な取り組み》

○おはなし会などの充実（入曽地域交流センター、総合子育て支援センター、子育てプレイス、児童館、学童保育室、富士見集会所、公民館）

子どもが本を手にとるきっかけとなり読書意欲を喚起するような事業を行います。

(6) 児童館などにおける子ども向け図書コーナーの充実

入曽地域交流センター、総合子育て支援センター、児童館、学童保育室、保健センター、公民館など、子どもが利用する身近な施設においては、子どもや保護者がいつでも気軽に利用できる子ども向け図書コーナーなどの設置や充実に努めます。

《主な取り組み》

○図書館資料の活用（入曽地域交流センター、総合子育て支援センター、児童館、学童保育室、保健センター、公民館）

図書コーナーを充実するため、図書館の団体貸出や図書館で除籍となったリサイクル資料を活用します。

3. 学校などにおける子どもの読書活動の推進

【現状と課題】

保育所や幼稚園などでは、日々の活動の中で、子どもの様子や状況に合わせて読み聞かせなどを積極的に取り入れているほか、本を活用して子どもの成長を促すことができるよう指導の充実を図っています。

幼稚園、小・中学校では子どもが読書の幅を広げ、生涯にわたっての読書習慣を身につけ、豊かな心の醸成を図るために、朝読書の実施など読書活動を充実させる取り組みを行っています。また、家庭によって読書環境が異なるため、子どもが学校図書館や学級文庫を利用することで、身近なところに本のある生活や読書の機会を保障しています。

学校図書館は、子どもが学んだり、読書をしたりする場所として、重要な役割を担っているため、学校図書館を子どもが積極的に利用できるよう、利用方法について教えています。また、蔵書管理の電算化で、貸出事務や蔵書管理を効率的に行うことができるようになりました。今後も子どもが立ち寄りたくなる身近な学校図書館が必要です。

そのために、子どもの成長に応じた本や授業で有効に活用できる資料を選定し、学校図書館資料の充実を図るほか、子どもが利用しやすく、利用したいと思える環境を整える必要があります。中学校では週の半分は学校図書館司書の勤務があること、アンケート結果で中学2年生の学校図書館の利用が増加していることを考え合わせると、子どもと本をつなぐためには、学校図書館にかかる人員の配置を一層充実させていく必要があります。

【施策の内容】

(1) 学校図書館資料の充実

子どもの学びや読書を支えるため、適切な蔵書構成のもとに学校図書館図書標準⁹を達成できるよう、司書教諭や学校図書館担当教諭、学校図書館司書を中心に、資料の選定、収集、除籍などを計画的に行い、学校図書館資料を充実します。

⁹ 学校図書館図書標準

文部科学省が、公立の義務教育諸学校において、各校の学級数に応じて学校図書館に整備すべき蔵書数を標準として定めたもの

《主な取り組み》

- 学校図書館資料の充実（教育総務課、教育指導課、幼稚園、小・中学校）
子どもの興味・関心に留意しつつ、授業での活用なども意識しながら、資料の選定、収集、除籍を行い、学校図書館資料を充実します。

（２）学校図書館の環境整備

子どもの学びや読書を支えるため、利用しやすい学校図書館環境を整備します。

《主な取り組み》

- 学校図書館の環境の整備（教育総務課、教育指導課、小・中学校）
司書教諭や学校図書館担当教諭と学校図書館司書が連携し、学校図書館ボランティアの協力を得ながら、資料の整理や運営などの学校図書館の環境の整備を行います。
学校図書館の蔵書管理システムを適正に運用し活用していきます。

重点

（３）学校における読書指導の充実

学校では、朝読書や、図書ボランティアによる読み聞かせなどにより読書の習慣化を促します。また、図書館資料を活用した授業を行うなどにより読書指導を充実します。

《主な取り組み》

- 読書の習慣化の推進（教育指導課、小・中学校）
朝読書の時間の設定や、読み聞かせの実施などにより読書の習慣化を推進します。
- 図書委員会活動の活性化（教育指導課、小・中学校）
各学校での図書委員会活動について、効果的な取組事例を共有し活性化します。
- 読書指導の充実（小・中学校）
学校図書館のガイダンス、レファレンスサービス、図書館資料を用いての学習により読書指導を充実します。
- 教職員の資質の向上（教育指導課、教育センター、小・中学校）
先進事例の調査研究、情報交換や研修の機会を充実することにより、教職員の資質の向上を図ります。

(4) 学校図書館の人的配置の充実

学校図書館の資料の充実、利用しやすい環境の整備、読書指導など、子どもと本をつなぐ活動の強化を図るため、学校図書館司書の配置を充実します。

《主な取り組み》

○学校図書館司書の配置の充実（教育指導課）

学校図書館機能の充実を図るため、学校図書館司書の配置とその活動をとらして学校図書館を充実します。

重点

(5) 保育所・幼稚園などにおける読書活動の充実

保育所や青い実学園、幼稚園では、活動の中に積極的に絵本の読み聞かせなどを取り入れ、子どもの発達段階や年齢層に合わせた読書活動を充実します。

《主な取り組み》

○読み聞かせの実施（保育所、青い実学園、幼稚園）

様々な場面を捉えて読み聞かせを実施することにより、子どもの読書活動を推進します。

○読書の習慣化の推進（幼稚園）

読書時間を設け、落ち着いて読書する環境を整えることにより読書の習慣化を推進します。

○職員の資質の向上（保育所、幼稚園）

読書活動に関する情報交換や研修の機会を充実することにより、職員の資質の向上を図ります。

○団体貸出の活用（保育所、青い実学園、幼稚園）

読み聞かせなど、指導に必要となる図書資料について、図書館の団体貸出を活用します。

4. ボランティアや団体との連携の推進

【現状と課題】

児童館、公民館や幼稚園、小・中学校などでは、多くのボランティアや関係団体の協力を得ながら、子どもへの読み聞かせや図書資料の整理などを行っています。また、図書館では、狭山市地域文庫連絡会をはじめとする子どもと本をつなぐための活動を行っている団体と連携し、おはなし会や講演会などを行っています。このように、子どもに本の楽しさを伝え、身近に本に親しめる環境を整えていくうえで、ボランティアや団体は大きな役割を担っています。今後も、こうしたボランティアや団体との連携を深め、協力を得ながら、子どもの読書活動を推進していくことが必要であり、そのためには、図書館や学校などが、ボランティアや団体の活動を支援又は育成していく必要があります。

【施策の内容】

(1) ボランティアや団体との連携事業の充実

おはなし会の実施など、子どもと本をつなぐ活動を充実するため、子どもの読書活動を推進する活動に取り組んでいるボランティアや団体との連携事業を充実します。

《主な取り組み》

○読み聞かせやおはなし会の充実（入曽地域交流センター、総合子育て支援センター、保育所、児童館、富士見集会所、公民館、図書館、幼稚園、小・中学校）

ボランティアや団体との連携・協力により、各施設において読み聞かせやおはなし会、本を活用した事業を充実します。



読み聞かせ「おたのしみ会」



市民文化祭「おはなし会」

(2) ボランティアや団体の活動の支援

子どもの読書活動を推進するため、団体貸出や子どもの読書活動に関する情報提供を積極的に行うことにより、子どもと本をつなぐ活動に取り組んでいるボランティアや団体の活動を支援します。

《主な取り組み》

○図書館資料の活用促進（図書館）

団体の活動で使用する資料を充実するため、団体貸出など図書館資料の活用を促進します。

○読み聞かせ講座の開催（図書館）

集団に向けて読み聞かせを行おうとする人を対象とした講座を開催します。

○レファレンスサービスの充実（図書館）

子どもと本をつなぐ活動を行うボランティアや団体などの活動を支援するため、読み聞かせなどに関する相談への対応を充実します。

○学校図書館ボランティア研修会の開催（教育指導課）

学校図書館ボランティアを対象とした研修会を開催します。



「読み聞かせ講座 はじめの一步」

5. 図書館と学校との連携の推進

【現状と課題】

図書館、教育指導課、学校による情報交換会を実施しています。図書館は、学校への出前講座の実施、資料選定支援、授業で利用する図書館資料の団体貸出など、学校と連携して子どもの読書活動を推進しています。今後も、学校教育と社会教育の両輪で子どもの読書活動を推進していく必要があります。

【施策の内容】

重点

(1) 図書館と学校との連携事業の充実

ブックトークの出前講座や、小学校の図書館見学、授業に必要な図書館資料の団体貸出など図書館と学校は連携し、指導の充実を図ります。

また、図書館、教育指導課、各小・中学校図書館担当者との情報交換会を行います。

《主な取り組み》

○情報交換会の実施（図書館、教育指導課、小・中学校）

図書館、教育指導課と小・中学校の学校図書館の担当教諭、学校図書館司書が一堂に会し、図書館から学校図書館への資料選定の支援や情報交換を行います。

○団体貸出の活用（図書館、小・中学校）

学校で指導上必要となる資料について、図書館は学校の希望に応じて団体貸出を行い、学校は積極的に活用します。

○出前講座の活用（小・中学校）

図書館は、ブックトークを学校への出前講座として提供し、学校はそれを活用します。

○図書館見学などの図書館訪問学習（小・中学校）

図書館見学など図書館に訪問しての体験学習や調べ学習を実施します。

基本目標Ⅱ 子どもの読書活動に関する啓発・広報の推進

1. 読書活動の啓発・広報の推進

【現状と課題】

本市では、毎月23日を「家庭読書の日」と定め、読書を通じた親子の交流を推奨しているほか、子どもの読書活動についての関心と理解を深め、子どもの読書意欲を高める「子ども読書の日」（4月23日）や「こどもの読書週間」（4月23日～5月12日）などの機会を捉えて、関連事業を行い、読書活動の啓発を行っています。

子どもの読書活動を推進していくためには、子どもの読書活動の意義や重要性について、保護者、保育士、図書館職員や教職員など子どもの周りの大人が理解と関心を深めていくことが必要であり、今後は、「家庭読書の日」、「子ども読書の日」、「こどもの読書週間」や「読書週間」（10月27日～11月9日）などの機会を活かしながら、啓発や広報を充実していくことが必要です。

【施策の内容】

重点

(1) 子どもの読書活動に関する啓発・広報の推進

図書館や小・中学校を中心とした様々な所管において、「家庭読書の日」、「子ども読書の日」、「こどもの読書週間」、「読書週間」などの機会を活かしながら、子どもの読書活動についての啓発や広報を推進します。

また、広報さやまや公式ホームページ、各所属が発行する広報紙、チラシ、館内掲示など様々な媒体を活用して、広く市民に対して子どもの読書活動に関する情報を積極的に発信していきます。

《主な取り組み》

- 「家庭読書の日」の啓発（総合子育て支援センター、保育所、児童館、学童保育室、社会教育課、公民館、図書館、教育指導課、幼稚園、小・中学校）
各施設においてポスターの掲示などを行うほか、図書館で発行する児童向け広報紙で啓発します。
- 「子ども読書の日」、「こどもの読書週間」の啓発・広報（総合子育て支援センター、保育所、児童館、学童保育室、青い実学園、社会教育課、公民館、図書館、幼稚園、小・中学校）
「子ども読書の日」や「こどもの読書週間」について、広報さやまへの掲載やポスターの掲示などにより啓発・広報するとともに、おはなし会

などの事業を実施します。

- 「読書週間」の啓発・広報（児童館、学童保育室、社会教育課、図書館、幼稚園、小・中学校）

「読書週間」について、広報さやまへの掲載やポスターの掲示などにより啓発・広報していくほか、関連事業を実施します。

- 子どもの読書活動に関する情報の発信（図書館）

子どもの本に対する興味や関心を高めるため、読書活動イベントの楽しさや情報について、公式ホームページやSNSなどで発信します。



こどもの読書週間展示



子ども読書の日
おはなし会「ちびぞうプラス」

2. 子どもに薦めたい本の普及

【現状と課題】

図書館では、乳幼児が初めて出会う本として薦めたい本のリスト「としょかんがおすすめる はじめてのえほん」を作成し、館内で配布しています。リストに掲載している本には、目印のシールを貼り、本の表紙を見せて展示するなどの工夫をしています。また、保健センターの「ぱくぱくベビー」（親と子の教室）の参加者に対しても、実際に本を紹介しながら、リストを配布しています。

教育委員会が、子どものときに読んでほしい本を年齢層ごとに選定した「さやまの100冊」については、図書館や小・中学校でリストを配布するとともに、公式ホームページにも掲載しています。また、すべての小・中学校には、該当する年齢区分の本を配置しています。図書館では、子どもや保護者が手に取りやすいように「さやまの100冊」のコーナーを常設しているほか、小・中学校など団体への貸出用に「さやまの100冊」をパックにして用意しています。

さらに、図書館では、子どもに薦めたい本を掲載した広報紙を定期的に発行し、全児童・生徒、市内の高校や社会教育施設などに配布しています。また、中学・高校生に対しては、テーマを掲げた本の展示を行っています。

今後も、子どもに薦めたい本の情報を様々な機会を捉えて紹介し普及させることにより、子どもの興味の幅を広げ、読書活動を一層推進していく必要があります。

【施策の内容】

(1) 子どもに薦めたい本に関する情報発信の充実

発達や年齢に合わせた本についての紹介リストの作成や、それぞれの所管で発行する広報紙などを活用し、保護者や関係所管に対して、子どもに薦めたい本に関する情報発信を充実します。

《主な取り組み》

○お薦め本のリスト作成（図書館）

乳幼児を持つ保護者などに向け、「としょかんがおすすめる はじめてのえほん」を作成、配布します。

○さやまの100冊の推奨（図書館、教育指導課、小・中学校）

「さやまの100冊」のリストの作成、配布、公式ホームページへの掲載のほか、常設コーナーの設置などにより利用を推奨します。

○図書館広報紙の発行（図書館）

図書館では、児童・生徒向けに年齢層に合わせて薦めたい本を掲載した広報紙を定期的に発行します。



本のリスト「としょかんがおすすめ
する はじめてのえほん」



<https://sayamalib.jp/kids/ichi>

狭山市立図書館公式ホームページ
「こどもページ としょかんのイチオン」

第3章 計画推進

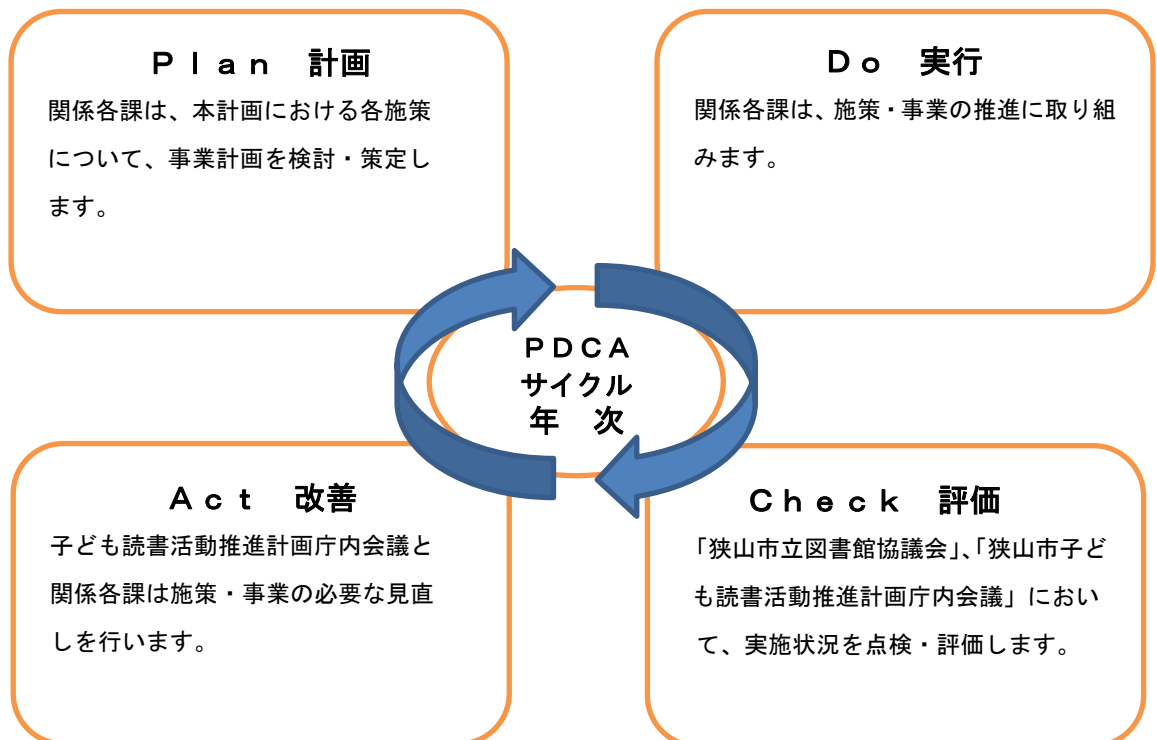
1. 計画の推進体制

本計画を実効性のあるものとするためには、子どもの読書活動に関わるすべての部署や施設が、それぞれの役割を自覚しながら、互いに連携・協力していくことが不可欠です。また、本計画の推進に当たっては、家庭や地域の理解と協力のもとに取り組んでいきます。

さらに、庁内に「狭山市子ども読書活動推進計画庁内会議」を設置し、計画に掲げた事業の実施状況を評価しながら、効果的に計画を推進していきます。

2. 計画の進行管理

本計画の進行管理にあたっては、計画に掲げた施策についてPDCAサイクル（Plan（計画）→Do（実行）→Check（評価）→Act（改善））をもとに毎年度、「狭山市立図書館協議会」、「狭山市子ども読書活動推進計画庁内会議」において、実施状況を点検・評価し、必要な見直しを行いながら推進します。



資 料 編

子どもの読書活動の推進に関する法律

子どもの読書活動の推進に関する法律

(平成 13 年 12 月 12 日法律第 154 号)

(目的)

第一条 この法律は、子どもの読書活動の推進に関し、基本理念を定め、並びに国及び地方公共団体の責務等を明らかにするとともに、子どもの読書活動の推進に関する必要な事項を定めることにより、子どもの読書活動の推進に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、もって子どもの健やかな成長に資することを目的とする。

(基本理念)

第二条 子ども（おおむね十八歳以下の者をいう。以下同じ。）の読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものであることにかんがみ、すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読書活動を行うことができるよう、積極的にそのための環境の整備が推進されなければならない。

(国の責務)

第三条 国は、前条の基本理念（以下「基本理念」という。）にのっとり、子どもの読書活動の推進に関する施策を総合的に策定し、及び実施する責務を有する。

(地方公共団体の責務)

第四条 地方公共団体は、基本理念にのっとり、国との連携を図りつつ、その地域の実情を踏まえ、子どもの読書活動の推進に関する施策を策定し、及び実施する責務を有する。

(事業者の努力)

第五条 事業者は、その事業活動を行うに当たっては、基本理念にのっとり、子どもの読書活動が推進されるよう、子どもの健やかな成長に資する書籍等の提供に努めるものとする。

(保護者の役割)

第六条 父母その他の保護者は、子どもの読書活動の機会の充実及び読書活動

の習慣化に積極的な役割を果たすものとする。

(関係機関等との連携強化)

第七条 国及び地方公共団体は、子どもの読書活動の推進に関する施策が円滑に実施されるよう、学校、図書館その他の関係機関及び民間団体との連携の強化その他必要な体制の整備に努めるものとする。

(子ども読書活動推進基本計画)

第八条 政府は、子どもの読書活動の推進に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画（以下「子ども読書活動推進基本計画」という。）を策定しなければならない。

- 2 政府は、子ども読書活動推進基本計画を策定したときは、遅滞なく、これを国会に報告するとともに、公表しなければならない。
- 3 前項の規定は、子ども読書活動推進基本計画の変更について準用する。

(都道府県子ども読書活動推進計画等)

第九条 都道府県は、子ども読書活動推進基本計画を基本とするとともに、当該都道府県における子どもの読書活動の推進の状況等を踏まえ、当該都道府県における子どもの読書活動の推進に関する施策についての計画（以下「都道府県子ども読書活動推進計画」という。）を策定するよう努めなければならない。

- 2 市町村は、子ども読書活動推進基本計画（都道府県子ども読書活動推進計画が策定されているときは、子ども読書活動推進基本計画及び都道府県子ども読書活動推進計画）を基本とするとともに、当該市町村における子どもの読書活動の推進の状況等を踏まえ、当該市町村における子どもの読書活動の推進に関する施策についての計画（以下「市町村子ども読書活動推進計画」という。）を策定するよう努めなければならない。
- 3 都道府県又は市町村は、都道府県子ども読書活動推進計画又は市町村子ども読書活動推進計画を策定したときは、これを公表しなければならない。
- 4 前項の規定は、都道府県子ども読書活動推進計画又は市町村子ども読書活動推進計画の変更について準用する。

(子ども読書の日)

第十条 国民の間に広く子どもの読書活動についての関心と理解を深めるとともに、子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高めるため、子ども読書の

- 日を設ける。
- 2 子ども読書の日は、四月二十三日とする。
 - 3 国及び地方公共団体は、子ども読書の日の趣旨にふさわしい事業を実施するよう努めなければならない。

(財政上の措置等)

第十一条 国及び地方公共団体は、子どもの読書活動の推進に関する施策を実施するため必要な財政上の措置その他の措置を講ずるよう努めるものとする。

附則

この法律は、公布の日から施行する。

○衆議院文部科学委員会における附帯決議

政府は、本法施行に当たり、次の事項について配慮すべきである。

- 一 本法は、子どもの自主的な読書活動が推進されるよう必要な施策を講じて環境を整備していくものであり、行政が不当に干渉することのないようにすること。
- 二 民意を反映し、子ども読書活動推進基本計画を速やかに策定し、子どもの読書活動の推進に関する施策の確立とその具体化に努めること。
- 三 子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において、本と親しみ、本を楽しむことができる環境づくりのため、学校図書館、公共図書館等の整備充実に努めること。
- 四 学校図書館、公共図書館等が図書を購入するに当たっては、その自主性を尊重すること。
- 五 子どもの健やかな成長に資する書籍等については、事業者がそれぞれの自主的判断に基づき提供に努めるようにすること。
- 六 国及び地方公共団体を実施する子ども読書の日の趣旨にふさわしい事業への子どもの参加については、その自主性を尊重すること。

計画の策定経過

時 期	項 目	内 容
令和3年度		
10月 7日～ 10月19日	第1回狭山市子ども読書活動推進計画 画庁内会議（書面開催）	策定方針について検討 策定までの流れについて検討
10月	アンケート調査実施	計画に係るアンケート調査実施
1月18日～ 2月 1日	第1回狭山市立図書館協議会 （書面開催）	アンケート結果報告 第3次計画について協議
令和4年度		
4月25日	狭山市定例教育委員会会議	策定方針について報告 アンケート結果報告
5月12日	第1回狭山市子ども読書活動推進計画 画庁内会議	アンケート結果報告 第3次計画（素案）検討
5月27日 6月18日	市民団体へのヒアリング実施	図書館ボランティア団体へのヒアリング実施
6月28日	第2回狭山市子ども読書活動推進計画 画庁内会議	第3次計画（素案）検討
7月 6日	第1回狭山市立図書館協議会	第3次計画（素案）について
8月10日	政策調整会議	第3次計画（素案）検討
9月27日	政策会議	第3次計画（素案）検討
11月10日～ 12月 9日	パブリックコメントの実施	パブリックコメントの実施 （結果：1団体・1件）
2月 8日	庁議	第3次計画（案）の審議・確認
2月15日	狭山市定例教育委員会会議	第3次計画の議決

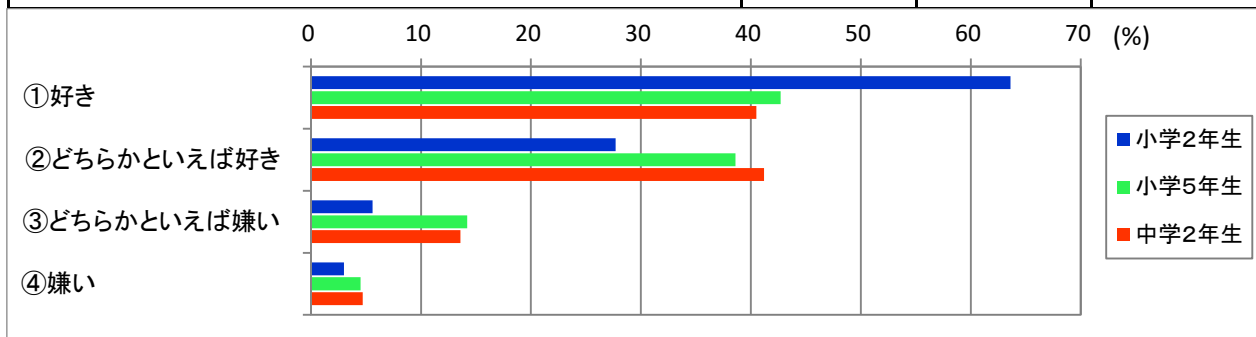
読書に関するアンケート結果（児童・生徒）

- ・令和3年10月実施
- ・市立の小中学校全23校から、小学2年生、小学5年生、中学2年生の各学年ごとに1クラスを選定し対象とした
- ・回答者数 小学2年生：429人 小学5年生：443人 中学2年生：279人
合計：1,151人
- ・数字は構成比を表しているが、回答のない項目・複数回答の項目があることや端数処理の関係から、合計が100にならないことがある

質問1 あなたは本を読むことが好きですか？

(%)

項目	小学2年生	小学5年生	中学2年生
①好き	63.6	42.7	40.5
②どちらかといえば好き	27.7	38.6	41.2
③どちらかといえば嫌い	5.6	14.2	13.6
④嫌い	3.0	4.5	4.7



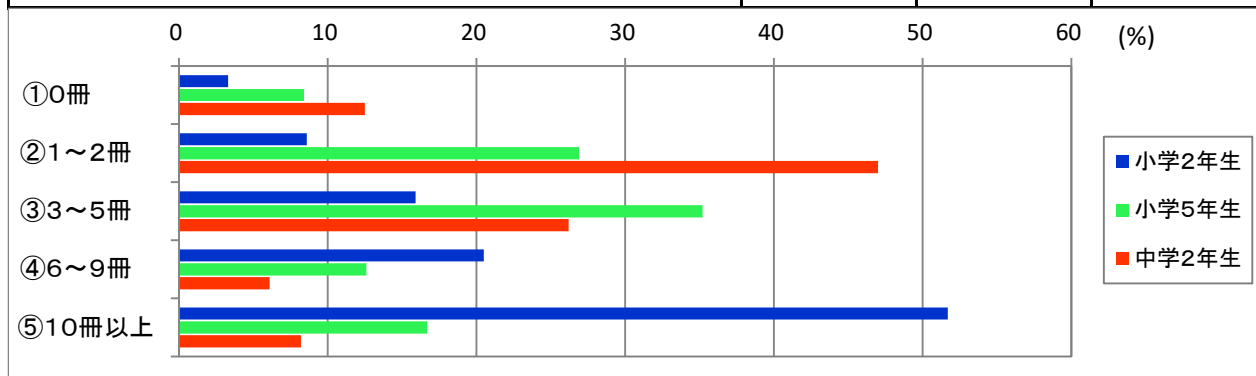
小学2年生では、本を読むことが「好き」と「どちらかといえば好き」を合わせると、91.3%となったが、小学5年生と中学2年生では80%台にとどまり、「どちらかといえば嫌い」や「嫌い」の割合が増えている。

質問2 あなたは今の学年になってから、一か月に何冊くらい本を読んでいますか？

(マンガ・雑誌・だれかに読んでもらった本は数えません。)

(%)

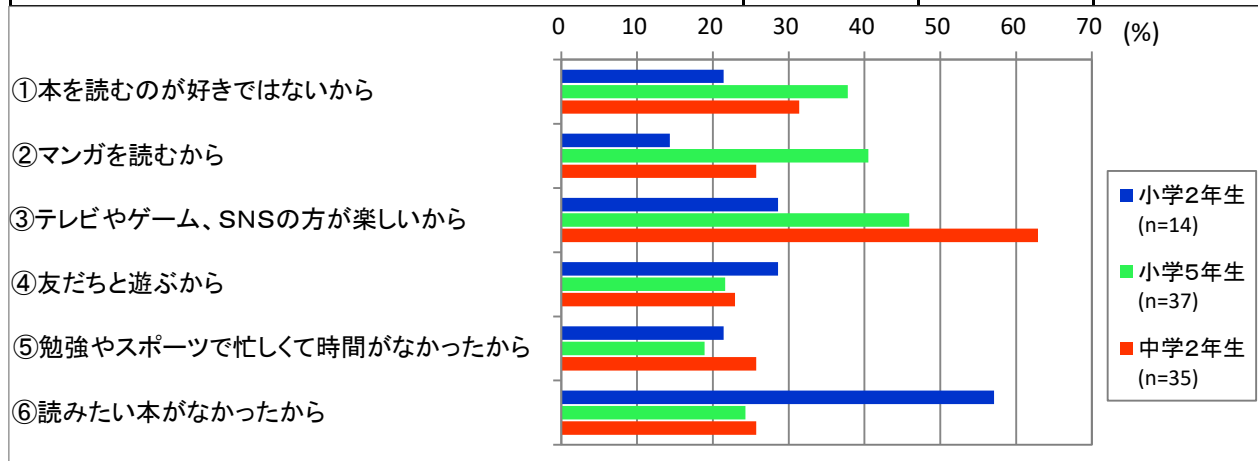
項目	小学2年生	小学5年生	中学2年生
①0冊	3.3	8.4	12.5
②1～2冊	8.6	26.9	47.0
③3～5冊	15.9	35.2	26.2
④6～9冊	20.5	12.6	6.1
⑤10冊以上	51.7	16.7	8.2



読んだ本の冊数は、小学2年生では、10冊以上が51.7%となったが、学年が進むにつれて減少している。一番多い割合は小学5年生では3～5冊の35.2%、中学2年生では1～2冊の47%となった。「0冊」との回答は学年が上がるにつれ増え、中学2年生では12.5%となった。

質問3 <質問2で①を選んだ人だけが答えてください。>
 あなたが本を読まなかったのはなぜですか？（2つ選択）

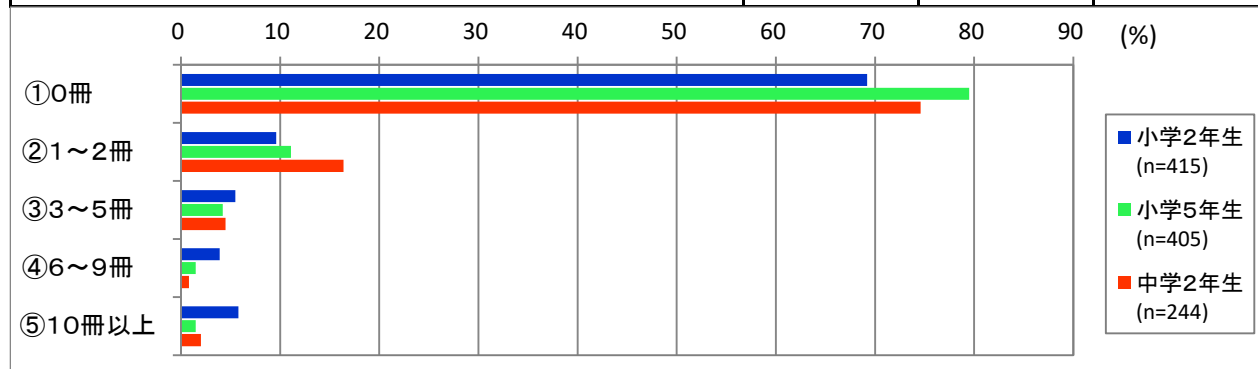
項目	小学2年生 (n=14)	小学5年生 (n=37)	中学2年生 (n=35)
①本を読むのが好きではないから	21.4	37.8	31.4
②マンガを読むから	14.3	40.5	25.7
③テレビやゲーム、SNSの方が楽しいから	28.6	45.9	62.9
④友だちと遊ぶから	28.6	21.6	22.9
⑤勉強やスポーツで忙しくて時間がなかったから	21.4	18.9	25.7
⑥読みたい本がなかったから	57.1	24.3	25.7



小学2年生では「読みたい本がなかったから」の回答が一番多かった。「テレビやゲーム、SNSの方が楽しいから」の回答は学年が上がるにつれ、増えていき、中学2年生では62.9%となっている。小学5年生の「マンガを読むから」が40.5%となり、他学年と比較すると割合が高い結果となった。

質問4 <質問2で②～⑤を選んだ人だけが答えてください。>
 質問2で答えた冊数のうち、電子書籍はありましたか？何冊ありましたか？

項目	小学2年生 (n=415)	小学5年生 (n=405)	中学2年生 (n=244)
①0冊	69.2	79.5	74.6
②1～2冊	9.6	11.1	16.4
③3～5冊	5.5	4.2	4.5
④6～9冊	3.9	1.5	0.8
⑤10冊以上	5.8	1.5	2.0

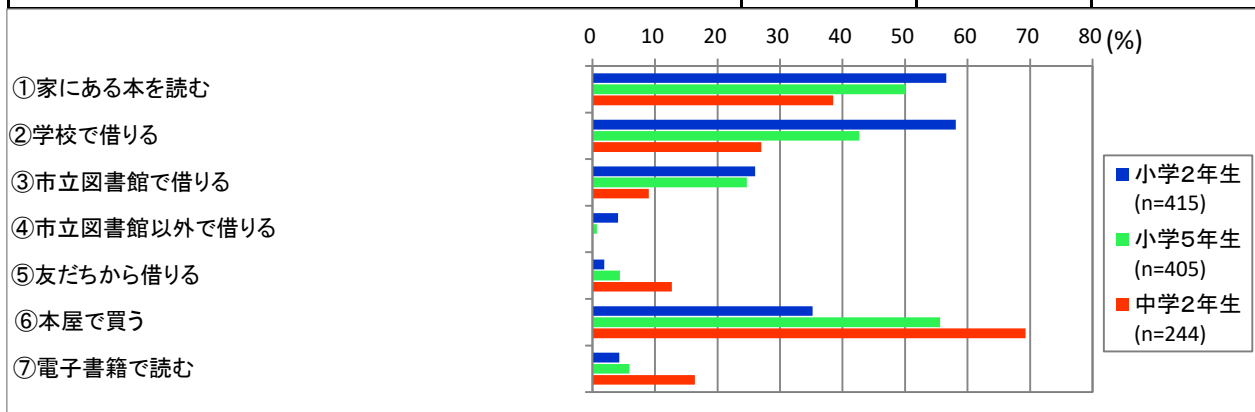


電子書籍を読んでいる小学2年生と中学2年生の割合が20%を超えている。電子書籍の冊数はどの学年も1～2冊が一番多く、小学5年生と中学2年生では10%を超えている。小学5年生の割合が他学年と比較して利用の割合が低い結果となった。

質問5 <<質問2で②～⑤を選んだ人だけが答えてください。>>
あなたは、読みたい本をどのようにして手にいれますか？（2つ選ぶ）

(%)

項目	小学2年生 (n=415)	小学5年生 (n=405)	中学2年生 (n=244)
①家にある本を読む	56.6	50.1	38.5
②学校で借りる	58.1	42.7	27.0
③市立図書館（中央図書館・狭山台図書館・さみどり号）で借りる	26.0	24.7	9.0
④市立図書館以外（学童保育室・児童館・塾など）で借りる	4.1	0.7	0.0
⑤友だちから借りる	1.9	4.4	12.7
⑥本屋で買う	35.2	55.6	69.3
⑦電子書籍で読む	4.3	5.9	16.4

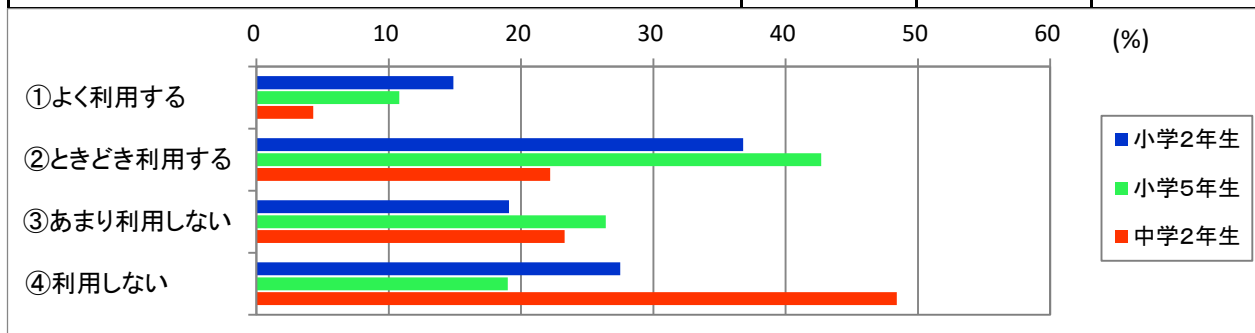


小学2年生では「学校で借りる」が、小学5年生と中学2年生では「本屋で買う」の割合が多くなっている。また、いずれの学年においても「家にある本を読む」が2番目に多かった。学校や図書館で借りるとの回答は学年が上がるにつれて減少している。

質問6 あなたは、休み時間や放課後に、学校の図書室や読書コーナーなどを利用しますか？

(%)

項目	小学2年生	小学5年生	中学2年生
①よく利用する	14.9	10.8	4.3
②ときどき利用する	36.8	42.7	22.2
③あまり利用しない	19.1	26.4	23.3
④利用しない	27.5	19.0	48.4



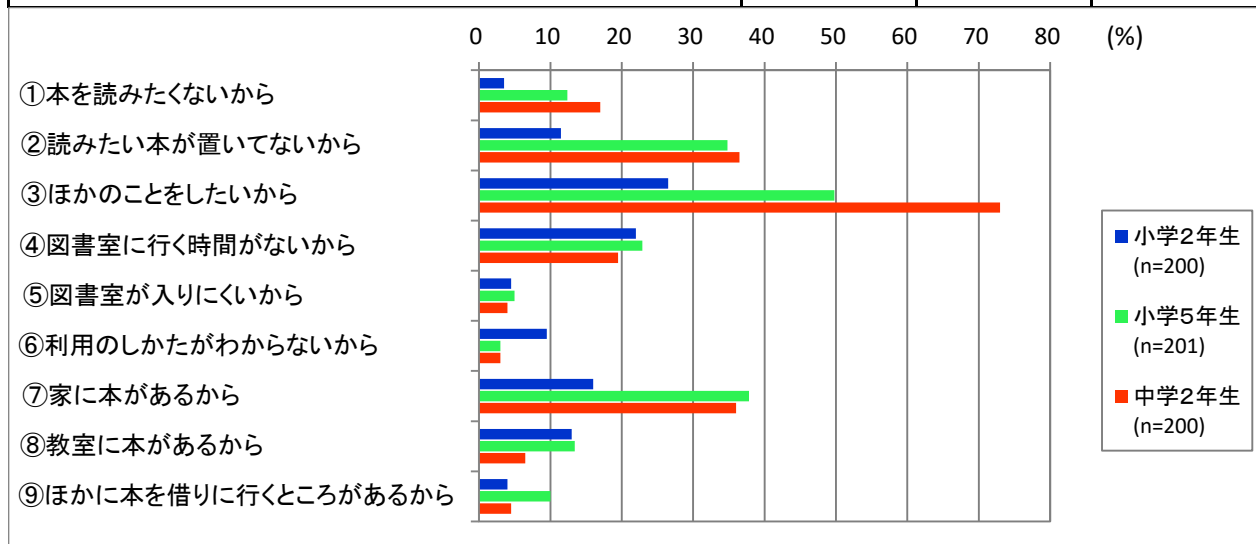
小学2年生と小学5年生では「よく利用する」と「ときどき利用する」を合わせると50%を超えているが、中学2年生では減少しており、「利用しない」との回答が48.4%になっている。

質問7 <<質問6で③か④を選んだ人は答えてください。>>

あなたが学校の図書室や読書コーナーなどを利用しないのはなぜですか？（2つ選択）

(%)

項目	小学2年生 (n=200)	小学5年生 (n=201)	中学2年生 (n=200)
①本を読みたくないから	3.5	12.4	17.0
②読みたい本が置いてないから	11.5	34.8	36.5
③ほかのことをしたいから	26.5	49.8	73.0
④図書室に行く時間がないから	22.0	22.9	19.5
⑤図書室が入りにくいから	4.5	5.0	4.0
⑥利用のしかたがわからないから	9.5	3.0	3.0
⑦家に本があるから	16.0	37.8	36.0
⑧教室に本があるから	13.0	13.4	6.5
⑨ほかに本を借りに行くところがあるから	4.0	10.0	4.5

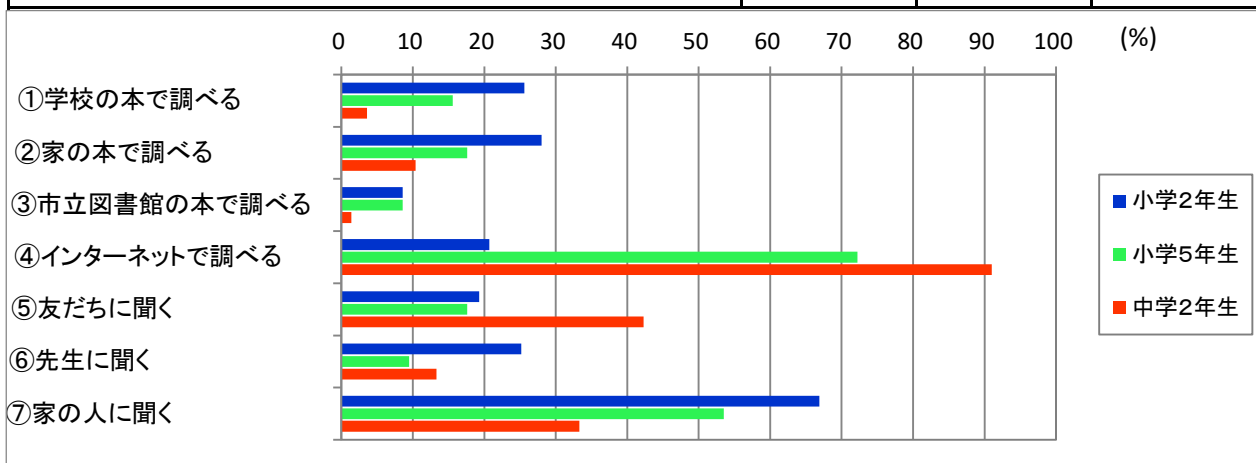


いずれの学年においても「ほかのことをしたいから」が最も多く、学年が上がるにつれ増加している。小学5年生と中学2年生では「家に本があるから」と「読みたい本が置いてないから」との回答が30%を超えている。

質問8 あなたは、知りたいことやわからないことがあったとき、どのようにして調べますか？（2つ選択）

(%)

項目	小学2年生	小学5年生	中学2年生
①学校の本で調べる	25.6	15.6	3.6
②家の本で調べる	28.0	17.6	10.4
③市立図書館の本で調べる	8.6	8.6	1.4
④インターネットで調べる	20.7	72.2	91.0
⑤友だちに聞く	19.3	17.6	42.3
⑥先生に聞く	25.2	9.5	13.3
⑦家の人に聞く	66.9	53.5	33.3

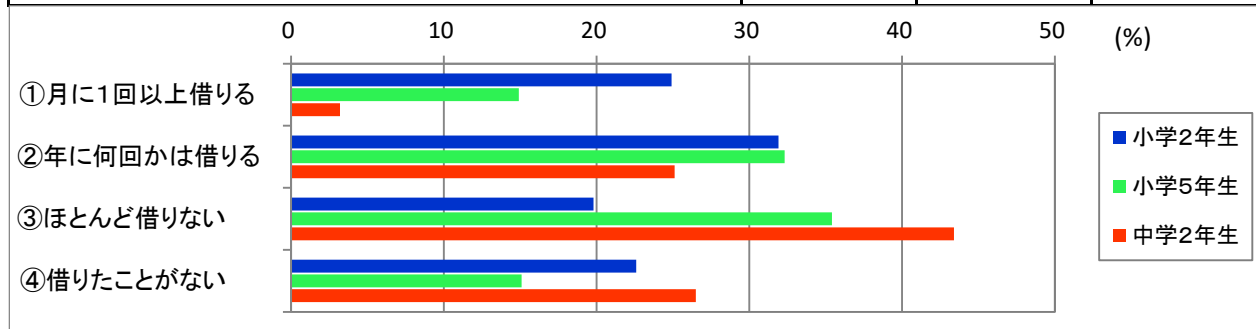


本を使用して調べる割合は、学年が進むにつれて減少している。一方「インターネットで調べる」との回答は、学年が進むにつれて大きく増え、中学2年生では91.0%となっている。また、「家の人に聞く」との回答が小学2年生と5年生は50%を超えているが、中学2年生では33.3%と減少し、「家の人に聞く」より「友だちに聞く」の方が多くなっている。

質問9 あなたは、市立図書館（中央図書館・狭山台図書館・さみどり号）で本を借りますか？

(%)

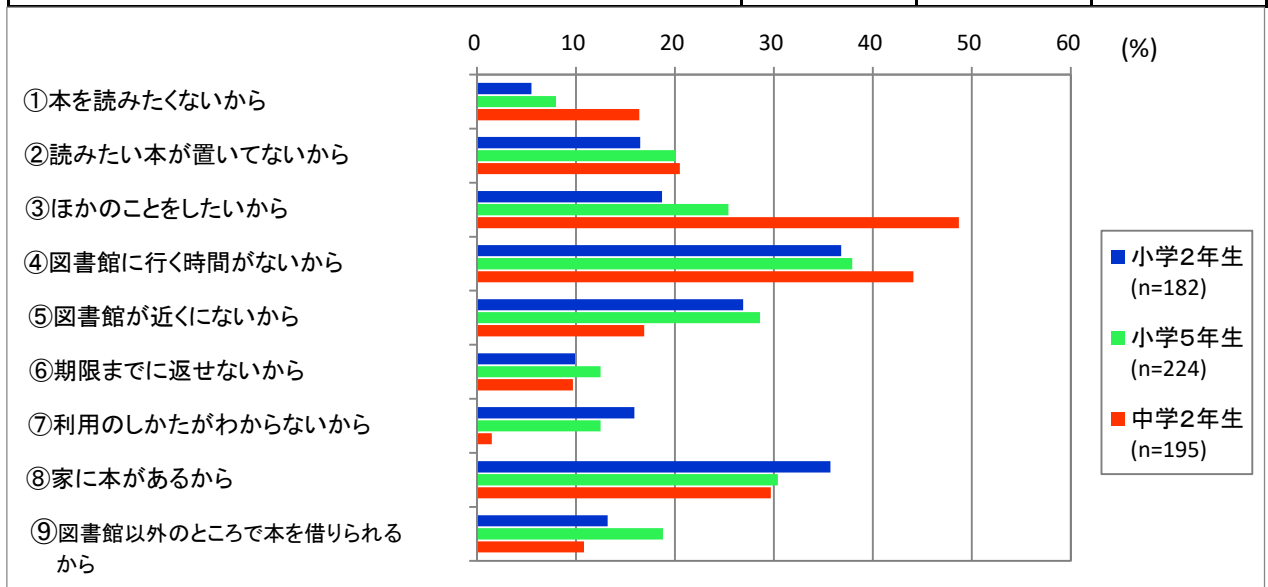
項目	小学2年生	小学5年生	中学2年生
①月に1回以上借りる	24.9	14.9	3.2
②年に何回かは借りる	31.9	32.3	25.1
③ほとんど借りない	19.8	35.4	43.4
④借りたことがない	22.6	15.1	26.5



「月に1回以上借りる」と「年に何回かは借りる」を合わせると小学2年生が56.8%となり、学年が進むにつれて減少している。一方、高学年になるほど「ほとんど借りない」の割合が高くなり、中学2年生では43.4%となっている。

質問10 <<質問9で③か④を選んだ人は教えてください。>>
 あなたが市立図書館で本を借りないのはどうしてですか？（2つ選択）

項目	（％）		
	小学2年生 (n=182)	小学5年生 (n=224)	中学2年生 (n=195)
①本を読みたくないから	5.5	8.0	16.4
②読みたい本が置いてないから	16.5	20.1	20.5
③ほかのことをしたいから	18.7	25.4	48.7
④図書館に行く時間がないから	36.8	37.9	44.1
⑤図書館が近くにないから	26.9	28.6	16.9
⑥期限までに返せないから	9.9	12.5	9.7
⑦利用のしかたがわからないから	15.9	12.5	1.5
⑧家に本があるから	35.7	30.4	29.7
⑨図書館以外のところで本を借りられるから	13.2	18.8	10.8

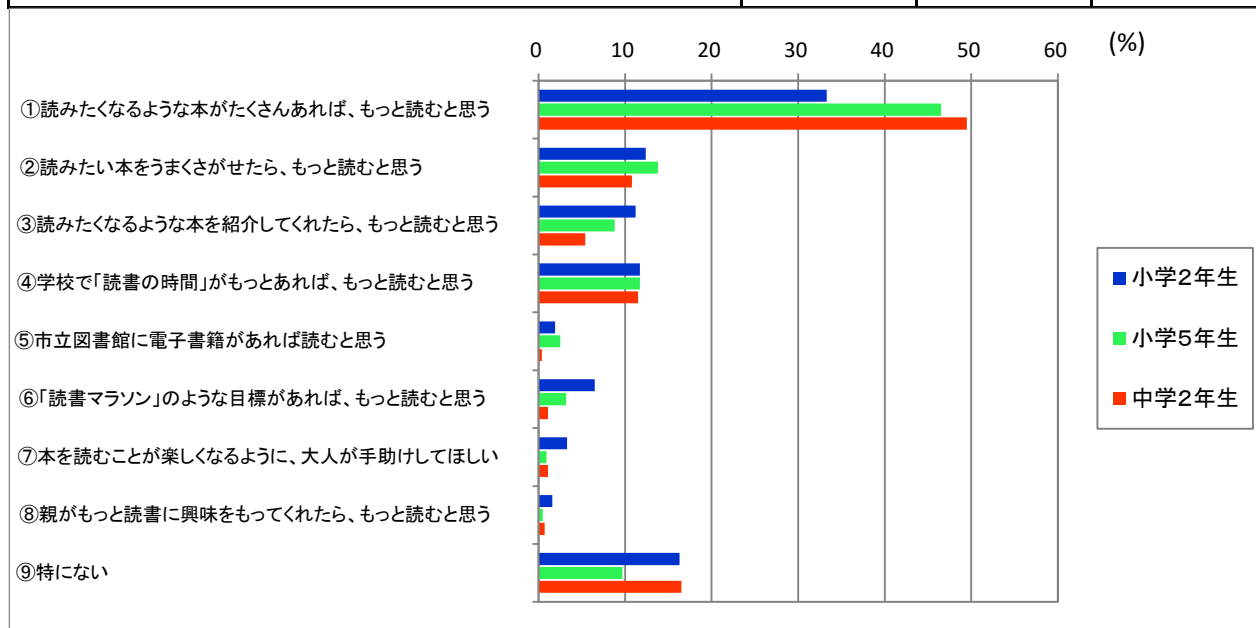


どの学年も「図書館に行く時間がないから」が35%を超え、「家に本があるから」が約30%となっている。中学2年生では「ほかのことをしたいから」との回答が最も多く48.7%となっている。

質問 1 1 あなたは、どうしてもっと本を読むようになりますか？

(%)

項目	小学2年生	小学5年生	中学2年生
①読みたくなるような本がたくさんあれば、もっと読むと思う	33.3	46.5	49.5
②読みたい本をうまくさがせたら、もっと読むと思う	12.4	13.8	10.8
③読みたくなるような本を紹介してくれたら、もっと読むと思う	11.2	8.8	5.4
④学校で「読書の時間」がもっとあれば、もっと読むと思う	11.7	11.7	11.5
⑤市立図書館に電子書籍があれば読むと思う	1.9	2.5	0.4
⑥「読書マラソン」のような目標があれば、もっと読むと思う	6.5	3.2	1.1
⑦本を読むことが楽しくなるように、大人が手助けしてほしい	3.3	0.9	1.1
⑧親がもっと読書に興味をもってくれたら、もっと読むと思う	1.6	0.5	0.7
⑨特にない	16.3	9.7	16.5

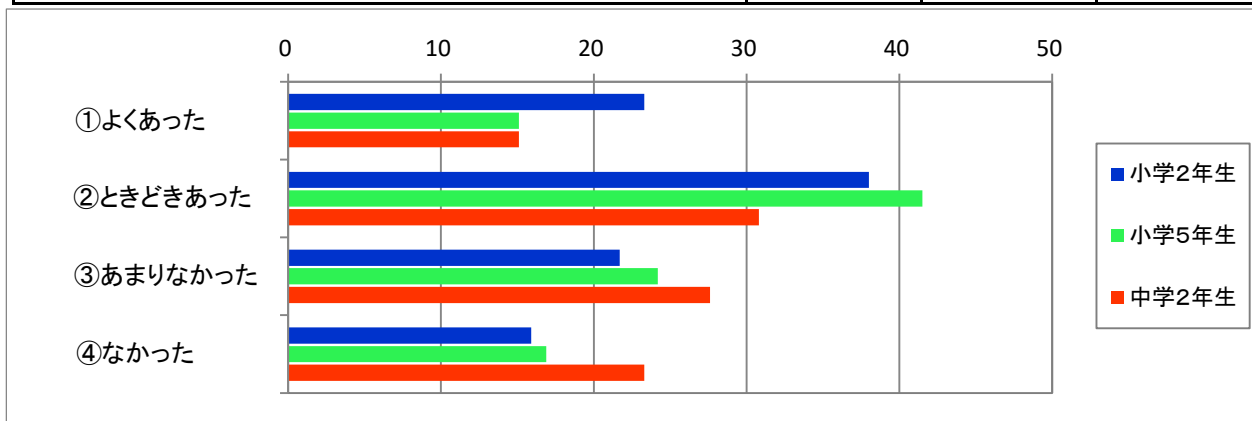


いずれの学年においても「読みたくなるような本がたくさんあれば、もっと読むと思う」が最も多くなっている。また「読みたい本をうまくさがせたら、もっと読むと思う」、「学校で「読書の時間」がもっとあれば、もっと読むと思う」の回答はどの学年も10%を超えている。

質問12 あなたは、友だちや家族などと、読んだ本について話をすることがありますか？

(%)

項目	小学2年生	小学5年生	中学2年生
①よくあった	23.3	15.1	15.1
②ときどきあった	38.0	41.5	30.8
③あまりなかった	21.7	24.2	27.6
④なかった	15.9	16.9	23.3

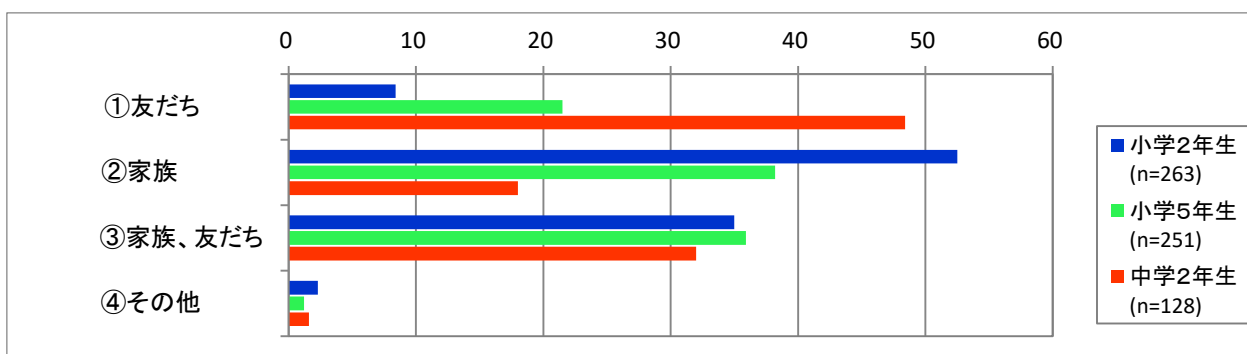


どの学年も「よくあった」と「ときどきあった」を合わせると小学2年生で61.3%、小学5年生で56.6%、中学2年生で45.9%と減少している。

質問13 <質問12で①か②を選んだ人だけが教えてください。>
読んだ本について話をする相手はだれですか？

(%)

項目	小学2年生 (n=263)	小学5年生 (n=251)	中学2年生 (n=128)
①友だち	8.4	21.5	48.4
②家族	52.5	38.2	18.0
③家族、友だち	35.0	35.9	32.0
④その他	2.3	1.2	1.6



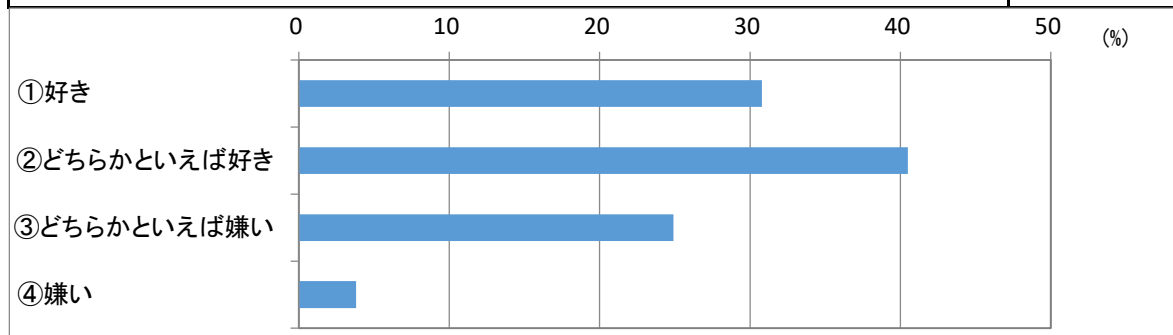
どの学年も「家族、友だち」の割合が30%を超えている。小学2年生では「家族」が52.5%となっているが、学年が上がるにつれ、減少している。一方「友だち」の割合は学年が上がるにつれ、増加し、中学2年生では48.4%となっている。

読書に関するアンケート結果（保護者）

- ・令和3年10月実施
- ・回答者数 390人
- ・数字は構成比を表しているが、回答のない項目・複数回答の項目があることや端数処理の関係から、合計が100にならないことがある

質問1 あなたは本を読むことが好きですか？ (%)

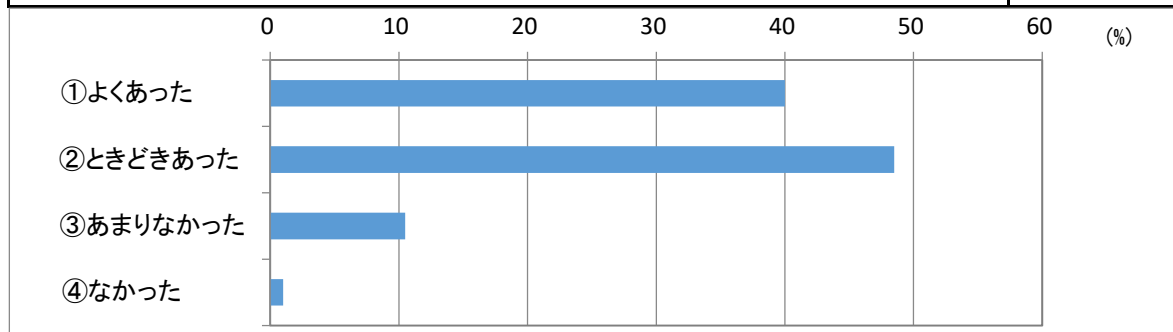
項目	保護者
①好き	30.8
②どちらかといえば好き	40.5
③どちらかといえば嫌い	24.9
④嫌い	3.8



本を読むことが「好き」と「どちらかといえば好き」の回答を合わせると71.3%となり、一方で「どちらかといえば嫌い」と「嫌い」を合わせると28.7%であった。

質問2 ご家庭で、お子さんに本を読んであげたことがありますか？ (%)

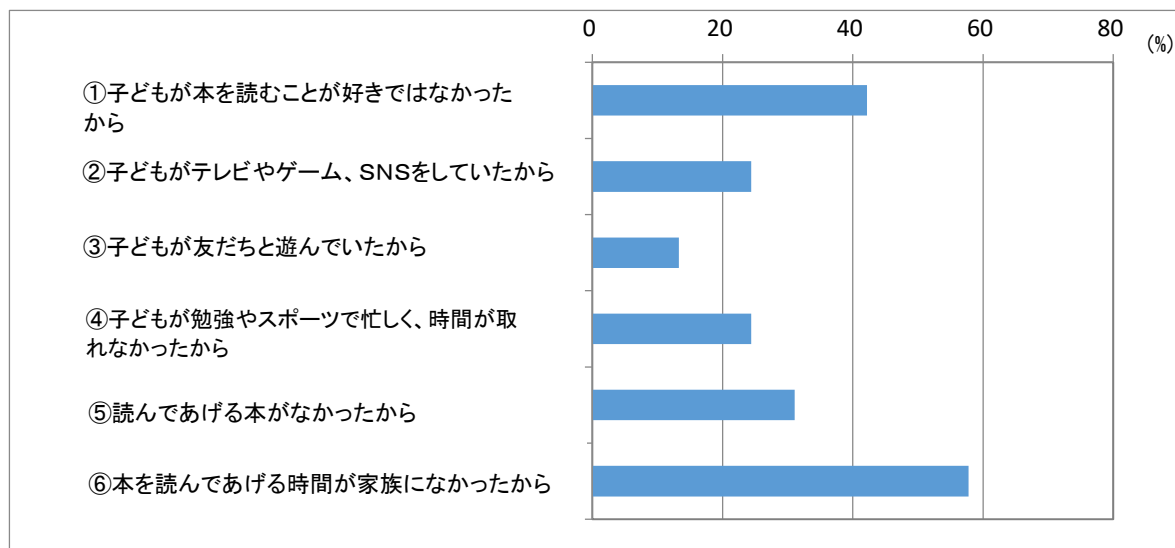
項目	保護者
①よくあった	40.0
②ときどきあった	48.5
③あまりなかった	10.5
④なかった	1.0



子どもに本を読んだ経験については、「よくあった」と「ときどきあった」の回答を合わせると88.5%となった。

質問3 <<質問2で③か④を選んだ方は答えてください。>>
本を読んであげなかったのは、なぜですか？（2つ選択）

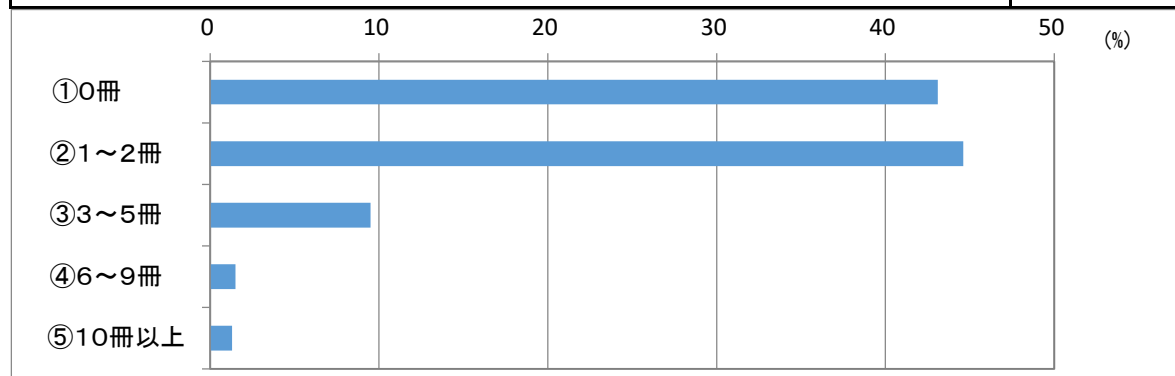
項目	保護者 n=45 (%)
①子どもが本を読むことが好きではなかったから	42.2
②子どもがテレビやゲーム、SNSをしていたから	24.4
③子どもが友だちと遊んでいたから	13.3
④子どもが勉強やスポーツで忙しく、時間が取れなかったから	24.4
⑤読んであげる本がなかったから	31.1
⑥本を読んであげる時間が家族になかったから	57.8



子どもに本を読まなかった理由としては「本を読んであげる時間が家族になかったから」が57.8%と最も多く、次いで「子どもが本を読むことが好きではなかったから」の42.2%がこれに続いた。

質問4 あなたは、一か月に何冊くらい本を読みますか？
（マンガ・雑誌は数えません。）

項目	保護者 (%)
①0冊	43.1
②1～2冊	44.6
③3～5冊	9.5
④6～9冊	1.5
⑤10冊以上	1.3

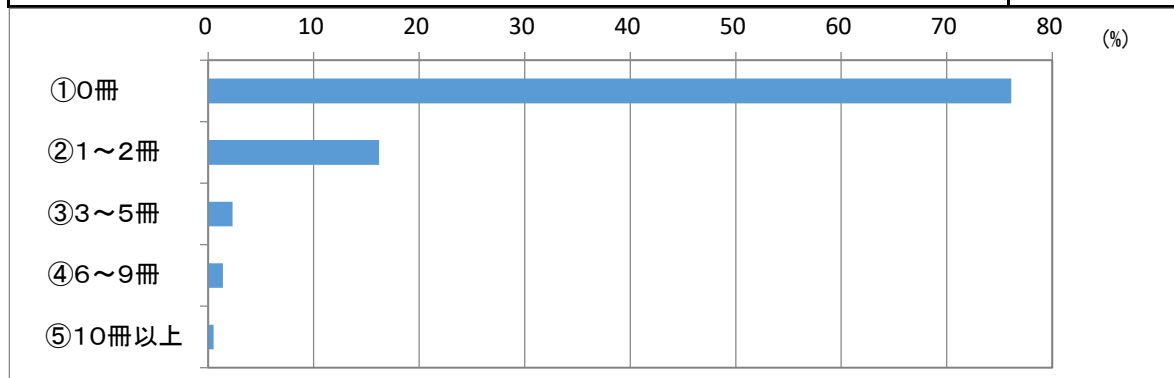


本を読んでいる状況については、「1～2冊」が最も多く44.6%、次いで「0冊」との回答が43.1%となった。

質問5 <<質問4で②から⑤を選んだ方は答えてください。>>
質問4で答えた冊数のうち、電子書籍は何冊ありましたか？

(%)

項目	保護者 n=222
①0冊	76.1
②1～2冊	16.2
③3～5冊	2.3
④6～9冊	1.4
⑤10冊以上	0.5

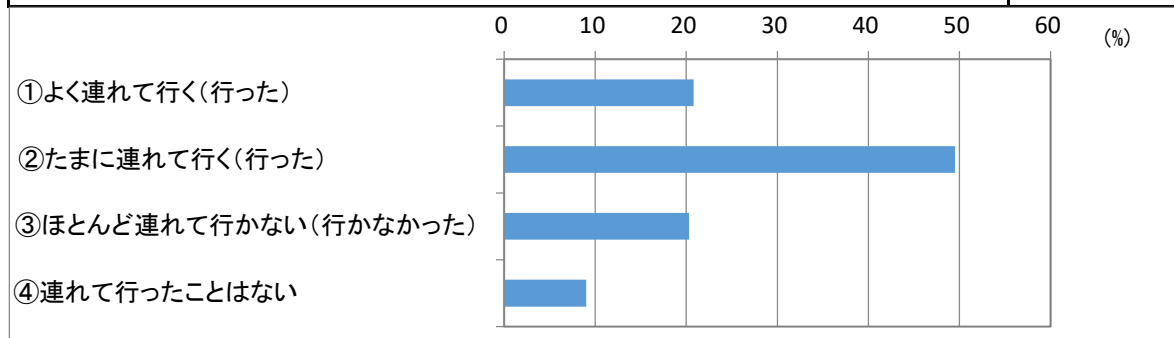


20.4%の人が電子書籍を読んでおり、その内訳は1～2冊が16.2%、3冊以上が4.2%となっている。

質問6 あなたは、お子さんを市立図書館（中央図書館・狭山台図書館・さみどり号）に連れて行きますか？ または過去に連れて行きましたか？

(%)

項目	保護者
①よく連れて行く（行った）	20.8
②たまに連れて行く（行った）	49.5
③ほとんど連れて行かない（行かなかった）	20.3
④連れて行ったことはない	9.0



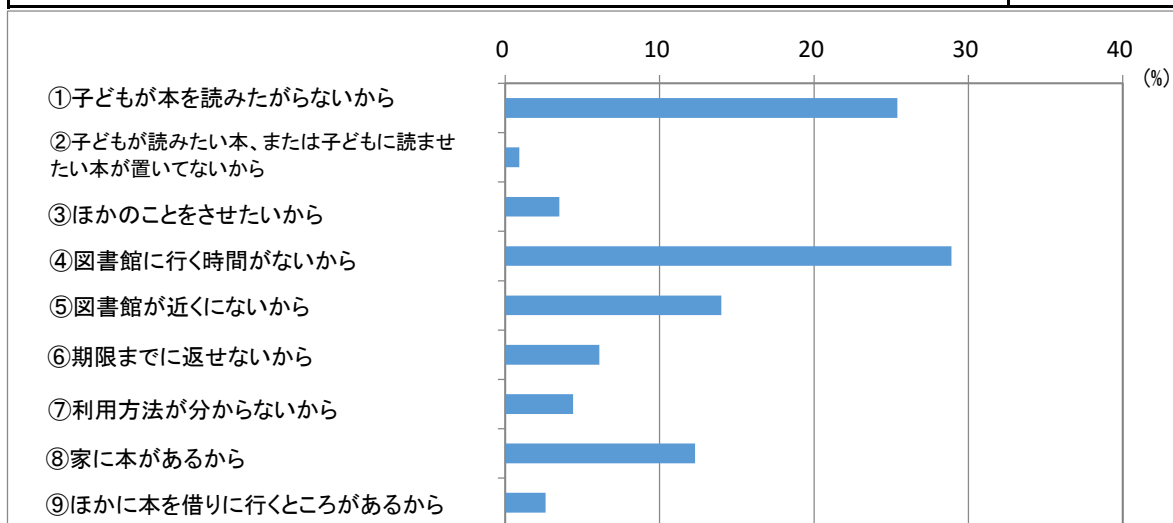
子どもを市立図書館に連れて行くかの問いに「よく連れて行く（行った）」と「たまに連れて行く（行った）」を合わせると70.3%となった。

質問7 <<質問6で③か④を選んだ人は答えてください。>>

あなたがお子さんを市立図書館に連れて行かないのは、なぜですか？

(%)

項目	保護者 n=114
①子どもが本を読みたがらないから	25.4
②子どもが読みたい本、または子どもに読ませたい本が置いてないから	0.9
③ほかのことをさせたいから	3.5
④図書館に行く時間がないから	28.9
⑤図書館が近くにないから	14.0
⑥期限までに返せないから	6.1
⑦利用方法が分からないから	4.4
⑧家に本があるから	12.3
⑨ほかに本を借りに行くところがあるから	2.6

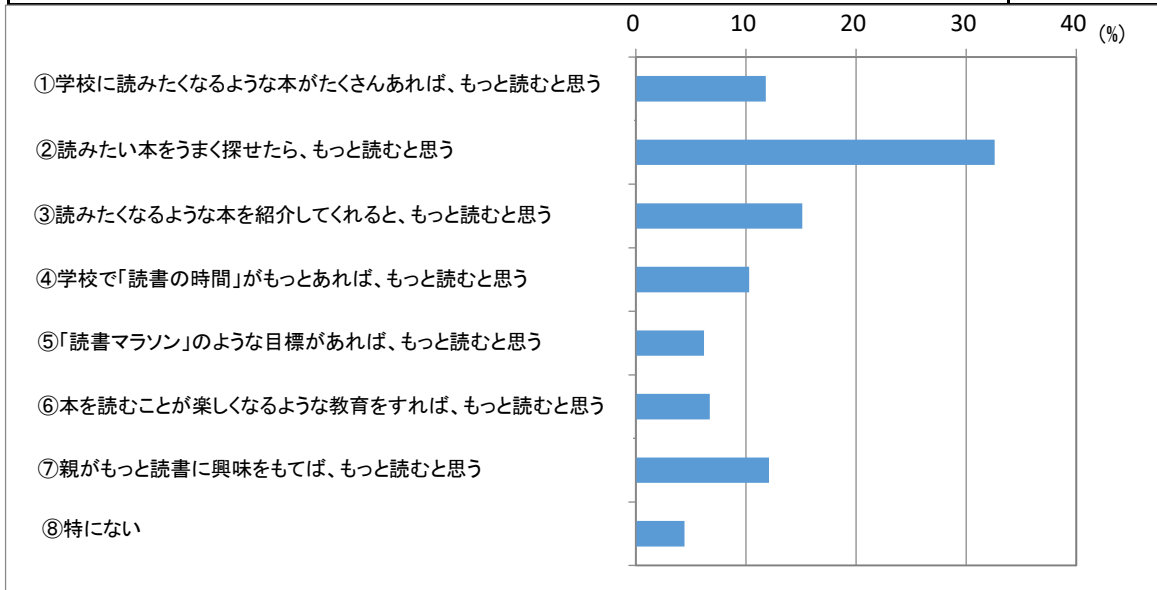


子どもを市立図書館に連れて行かない（行かなかった）理由として「図書館に行く時間がないから」が28.9%と最も多く、「子どもが本を読みたがらないから」の25.4%がこれに続いた。

質問8 あなたがお子さんが、もっと本を読むようになるためには、何が必要だと思いますか？

(%)

項目	保護者
①学校に読みたくなるような本がたくさんあれば、もっと読むと思う	11.8
②読みたい本をうまく探せたら、もっと読むと思う	32.6
③読みたくなるような本を紹介してくれると、もっと読むと思う	15.1
④学校で「読書の時間」がもっとあれば、もっと読むと思う	10.3
⑤「読書マラソン」のような目標があれば、もっと読むと思う	6.2
⑥本を読むことが楽しくなるような教育をすれば、もっと読むと思う	6.7
⑦親がもっと読書に興味をもてば、もっと読むと思う	12.1
⑧特にない	4.4

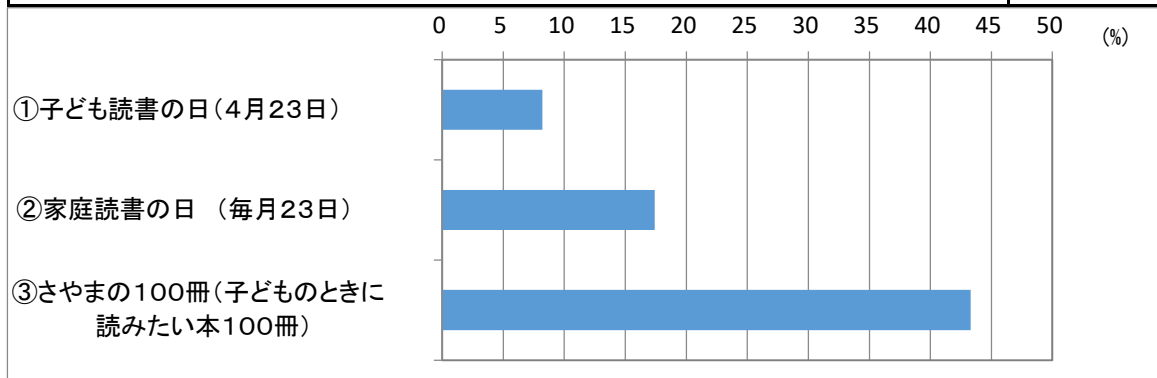


子どもが本を読むようになるために「読みたい本をうまく探せたら、もっと読むと思う」と回答した保護者が32.6%と最も多かった。

質問9 あなたは、「子ども読書の日」や狭山市教育委員会が定めた「家庭読書の日」「さやまの100冊」を知っていますか？

(%)

項目	保護者
①子ども読書の日（4月23日）	8.2
②家庭読書の日（毎月23日）	17.4
③さやまの100冊（子どものときに読みたい本100冊）	43.3



「子ども読書の日」「家庭読書の日」の認知度は高くなく、最も多かった「さやまの100冊」では43.3%となった。

読書に関するアンケート結果の比較（児童・生徒）

【平成23年10月調査】	回答者数	小学校2年生：407人 中学校2年生：332人	小学校5年生：457人 合計：1,196人
【平成28年10月調査】	回答者数	小学校2年生：366人 中学校2年生：270人	小学校5年生：486人 合計：1,122人
【平成29年10月調査】	回答者数	小学校2年生：431人 中学校2年生：278人	小学校5年生：470人 合計：1,179人
【令和3年10月調査】	回答者数	小学校2年生：429人 中学校2年生：279人	小学校5年生：443人 合計：1,151人

・数字は構成比を表しているが、回答のない項目・複数回答の項目があることや端数処理の関係から、合計が100にならないことがある

質問1 あなたは本を読むことが好きですか？

(単位 %)

項目	小学2年生				小学5年生				中学2年生			
	H23	H28	H29	R3	H23	H28	H29	R3	H23	H28	H29	R3
①好き	63.9	64.8	64.3	63.6	44.4	45.3	39.6	42.7	41.0	40.7	45.0	40.5
②どちらかといえば好き	26.3	26.9	29.0	27.7	36.1	37.9	38.1	38.6	41.9	39.3	33.5	41.2
③どちらかといえば嫌い	5.4	4.4	3.7	5.6	14.9	11.7	14.3	14.2	12.0	12.2	16.2	13.6
④嫌い	4.2	3.9	2.6	3.0	4.6	4.9	8.1	4.5	5.1	7.8	5.4	4.7

質問2 あなたは今の学年になってから、一か月に何冊くらい本を読んでいますか？
(マンガ・雑誌・だれかに読んでもらった本は数えません。)

(単位 %)

項目	小学2年生				小学5年生				中学2年生			
	H23	H28	H29	R3	H23	H28	H29	R3	H23	H28	H29	R3
①0冊	2.0	1.8	2.1	3.3	6.1	11.3	9.6	8.4	13.3	13.7	9.7	12.5
②1～2冊	8.8	8.0	11.8	8.6	26.3	31.1	23.0	26.9	42.8	44.1	54.0	47.0
③3～5冊	15.5	20.5	23.0	15.9	33.3	24.0	30.9	35.2	32.2	26.7	23.4	26.2
④6～9冊	16.7	23.1	21.3	20.5	14.9	16.2	15.5	12.6	7.5	6.3	6.8	6.1
⑤10冊以上	58.2	46.6	40.4	51.7	19.3	17.2	21.1	16.7	4.2	9.3	6.1	8.2

質問3 <質問2で①を選んだ人だけが答えてください。>
あなたが本を読まなかったのはなぜですか？(2つ選択)

(単位 %)

項目	小学2年生				小学5年生				中学2年生			
	H23	H28	H29	R3	H23	H28	H29	R3	H23	H28	H29	R3
①本を読むのが好きではないから	0.0	0.0	22.2	21.4	35.7	30.9	26.7	37.8	29.5	40.5	29.6	31.4
②マンガを読むから	0.0	42.9	22.2	14.3	28.6	36.4	42.2	40.5	38.6	21.6	33.3	25.7
③テレビやゲーム、SNSのほうが好きだから	-	-	-	28.6	-	-	-	45.9	-	-	-	62.9
③' テレビやDVD・ビデオを見るから	25.0	42.9	22.2	-	28.6	20.0	20.0	-	20.5	29.7	25.9	-
③' ゲームをするから	25.0	28.6	55.6	-	35.7	34.5	44.4	-	18.2	27.0	33.3	-
④友だちと遊ぶから	25.0	42.9	33.3	28.6	35.7	20.0	26.7	21.6	20.5	16.2	25.9	22.9
⑤勉強やスポーツで忙しくて時間がなかったから	12.5	14.3	22.2	21.4	14.3	30.9	13.3	18.9	25.0	35.1	29.6	25.7
⑥読みたい本がなかったから	12.5	28.6	44.4	57.1	21.4	27.3	24.4	24.3	18.2	27.0	11.1	25.7

質問4 <質問2で②から⑤を選んだ人だけが答えてください。>
質問2で答えた冊数のうち、電子書籍はありましたか？何冊ありましたか？(R3新設問)

(単位 %)

項目	小学2年生				小学5年生				中学2年生			
	H23	H28	H29	R3	H23	H28	R3	R3	H23	H28	H29	R3
①0冊	-	-	-	69.2	-	-	-	79.5	-	-	-	74.6
②1～2冊	-	-	-	9.6	-	-	-	11.1	-	-	-	16.4
③3～5冊	-	-	-	5.5	-	-	-	4.2	-	-	-	4.5
④6～9冊	-	-	-	3.9	-	-	-	1.5	-	-	-	0.8
⑤10冊以上	-	-	-	5.8	-	-	-	1.5	-	-	-	2.0

質問5 あなたは、読みたい本をどのようにして手にいれますか？（2つ選択）
（H29は全員回答、H23・28、R3は質問2で②～⑤を選んだ人だけが回答）

（単位 %）

項 目	小学2年生				小学5年生				中学2年生			
	H23	H28	H29	R3	H23	H28	H29	R3	H23	H28	H29	R3
①家にある本を読む	61.9	56.5	56.1	56.6	45.8	57.9	46.0	50.1	52.8	52.4	80.8	38.5
②学校で借りる	40.8	52.0	38.7	58.1	48.8	38.2	38.7	42.7	12.5	18.5	20.4	27.0
③市立図書館（中央図書館・狭山台図書館・さみどり号）で借りる	41.1	34.0	42.5	26.0	35.5	28.9	34.5	24.7	11.1	9.4	8.2	9.0
④市立図書館以外（学童保育室・児童館・塾など）で借りる	6.2	11.1	9.5	4.1	3.7	2.8	3.8	0.7	0.7	0.4	0.4	0.0
⑤友だちから借りる	6.7	2.6	4.9	1.9	7.9	7.6	11.1	4.4	41.0	31.8	17.6	12.7
⑥本屋で買う	39.9	37.7	40.4	35.2	55.4	61.1	64.9	55.6	86.8	82.3	88.2	69.3
⑦電子書籍で読む	-	-	-	4.3	-	-	-	5.9	-	-	-	16.4

質問6 あなたは、休み時間や放課後に、学校の図書室や読書コーナーなどを利用しますか？

（単位 %）

項 目	小学2年生				小学5年生				中学2年生			
	H23	H28	H29	R3	H23	H28	H29	R3	H23	H28	H29	R3
①よく利用する	26.0	19.9	21.8	14.9	12.5	9.8	12.3	10.8	5.4	9.3	4.7	4.3
②ときどき利用する	40.5	45.6	48.7	36.8	41.6	38.5	45.3	42.7	19.6	15.6	17.3	22.2
③あまり利用しない	11.3	15.5	16.5	19.1	28.2	30.5	29.4	26.4	28.0	25.2	27.3	23.3
④利用しない	12.8	18.9	12.3	27.5	15.8	30.9	13.4	19.0	47.0	50.0	50.4	48.4

質問7 <質問6で③か④を選んだ人は答えてください。>
あなたが学校の図書室や読書コーナーなどを利用しないのはなぜですか？（2つ選択）

（単位 %）

項 目	小学2年生				小学5年生				中学2年生			
	H23	H28	H29	R3	H23	H28	H29	R3	H23	H28	H29	R3
①本を読みたくなから	14.3	6.0	8.1	3.5	10.9	12.7	19.9	12.4	16.1	12.8	10.6	17.0
②読みたい本が置いてないから	30.6	18.0	25.0	11.5	49.8	35.5	46.8	34.8	44.2	39.9	36.1	36.5
③ほかのことをしたいから	50.0	42.1	39.5	26.5	48.3	48.6	56.7	49.8	57.8	60.1	60.2	73.0
④図書室に行く時間がないから	39.8	30.1	19.4	22.0	21.9	28.7	19.9	22.9	20.9	24.6	21.3	19.5
⑤図書室が入りにくいから	9.2	2.3	4.8	4.5	1.5	2.8	2.0	5.0	5.0	3.4	3.2	4.0
⑥利用のしかたがわからないから	10.2	9.8	6.5	9.5	2.0	2.4	2.0	3.0	3.0	4.4	4.2	3.0
⑦家に本があるから	34.7	26.3	33.9	16.0	29.4	38.2	26.9	37.8	37.8	28.1	54.6	36.0
⑧教室に本があるから	31.6	40.6	25.0	13.0	20.9	19.9	15.9	13.4	13.4	7.9	7.9	6.5
⑨ほかに本を借りに行くところがあるから	18.4	12.8	10.5	4.0	12.4	10.0	7.5	10.0	10.0	4.9	3.2	4.5

質問8 あなたは、知りたいことやわからないことがあったとき、どのようにして調べますか？（2つ選択）

（単位 %）

項 目	小学2年生				小学5年生				中学2年生			
	H23	H28	H29	R3	H23	H28	H29	R3	H23	H28	H29	R3
①学校の本で調べる	30.5	24.1	23.9	25.6	28.7	17.0	23.0	15.6	4.8	4.1	5.4	3.6
②家の本で調べる	34.9	32.6	32.5	28.0	14.0	18.4	20.0	17.6	13.6	8.9	15.1	10.4
③市立図書館の本で調べる	24.8	16.3	20.2	8.6	17.5	13.7	12.3	8.6	5.7	4.8	2.9	1.4
④インターネットで調べる	23.3	19.7	22.7	20.7	60.0	59.2	62.1	72.2	77.7	91.1	86.7	91.0
⑤友だちに聞く	17.0	24.1	20.6	19.3	17.1	19.7	16.0	17.6	37.3	28.5	36.3	42.3
⑥先生に聞く	14.3	19.7	15.1	25.2	6.6	9.8	6.2	9.5	4.8	8.9	7.2	13.3
⑦家の人に聞く	48.9	60.6	57.8	66.9	51.4	60.9	60.0	53.5	49.1	48.5	47.5	33.3

質問9 あなたは、市立図書館（中央図書館・狭山台図書館・さみどり号）で本を借りますか？

(単位 %)

項 目	小学2年生				小学5年生				中学2年生			
	H23	H28	H29	R3	H23	H28	H29	R3	H23	H28	H29	R3
①月に1回以上借りる	35.6	29.8	33.6	24.9	17.3	16.6	19.1	14.9	3.3	4.1	4.0	3.2
②年に何回かは借りる	29.5	32.6	30.6	31.9	43.5	37.5	37.7	32.3	22.9	27.4	27.7	25.1
③ほとんど借りない	17.2	13.5	12.8	19.8	22.8	32.2	30.2	35.4	50.3	44.1	47.8	43.4
④借りたことがない	14.7	23.1	21.6	22.6	13.3	13.3	13.0	15.1	22.3	23.7	20.1	26.5

質問10 <質問9で③か④を選んだ人は答えてください。>

あなたが市立図書館で本を借りないのはどうしてですか？（2つ選択）

(単位 %)

項 目	小学2年生				小学5年生				中学2年生			
	H23	H28	H29	R3	H23	H28	H29	R3	H23	H28	H29	R3
①本を読みたくないから	7.7	2.8	8.8	5.5	12.7	9.9	17.7	8.0	11.6	15.3	15.9	16.4
②読みたい本が置いてないから	26.2	11.3	12.8	16.5	23.0	14.9	16.3	20.1	25.7	24.6	20.1	20.5
③ほかのことをしたいから	26.9	9.9	21.6	18.7	26.1	34.7	26.6	25.4	44.0	46.4	41.8	48.7
④図書館に行く時間がないから	48.5	48.9	32.4	36.8	42.4	37.8	47.3	37.9	49.8	49.2	42.9	44.1
⑤図書館が近くにないから	33.1	39.0	35.1	26.9	18.2	23.4	26.6	28.6	15.8	9.8	11.6	16.9
⑥期限までに返せないから	19.2	13.5	12.8	9.9	24.8	17.6	17.2	12.5	12.4	10.9	15.3	9.7
⑦利用のしかたがわからないから	10.8	17.7	18.9	15.9	10.9	12.2	6.4	12.5	2.1	3.3	2.1	1.5
⑧家に本があるから	43.1	32.6	23.0	35.7	27.9	33.8	22.7	30.4	24.9	24.6	41.3	29.7
⑨図書館以外のところで本を借りられるから	17.7	6.4	13.5	13.2	13.3	16.2	17.7	18.8	10.8	12.6	6.9	10.8

質問11 あなたは、どうしたらもっと本を読むようになると思いますか？

(単位 %)

項 目	小学2年生				小学5年生				中学2年生			
	H23	H28	H29	R3	H23	H28	H29	R3	H23	H28	H29	R3
①読みたくなるような本がたくさんあれば、もっと読むと思う	39.1	35.2	45.0	33.3	50.8	47.7	46.8	46.5	52.4	46.3	51.4	49.5
②読みたい本をうまくさがせたらもっと読むと思う	19.4	15.5	16.5	12.4	17.7	12.5	18.3	13.8	13.3	11.1	11.9	10.8
③読みたくなるような本を紹介してくれたら、もっと読むと思う	11.8	9.6	5.8	11.2	6.8	7.2	5.5	8.8	5.4	6.3	4.3	5.4
④学校で「読書の時間」がもっとあれば、もっと読むと思う	10.1	12.2	8.4	11.7	11.6	14.5	13.0	11.7	12.7	10.7	11.2	11.5
⑤市立図書館に電子書籍があれば読むと思う	-	-	-	1.9	-	-	-	2.5	-	-	-	0.4
⑥「読書マラソン」のような目標があれば、もっと読むと思う	8.4	12.4	6.5	6.5	5.3	5.9	4.5	3.2	1.5	2.2	1.1	1.1
⑦本を読むことが楽しくなるように、大人が手助けしてほしい	2.0	0.5	1.6	3.3	0.2	0.4	0.4	0.9	0.3	0.0	0.0	1.1
⑧親がもっと読書に興味をもってくれたら、もっと読むと思う	1.7	2.6	3.2	1.6	0.4	1.0	0.9	0.5	0.3	1.0	0.0	0.7
⑨特にない	9.1	10.1	9.7	16.3	4.6	9.8	11.9	9.7	12.3	21.9	19.8	16.5

質問12 あなたは、友だちや家族などと、読んだ本について話をすることがありますか？（R3新設問）

（単位 %）

項 目	小学2年生				小学5年生				中学2年生			
	H23	H28	H29	R3	H23	H28	H29	R3	H23	H28	H29	R3
①よくあった	-	-	-	23.3	-	-	-	15.1	-	-	-	15.1
②ときどきあった	-	-	-	38.0	-	-	-	41.5	-	-	-	30.8
③あまりなかった	-	-	-	21.7	-	-	-	24.2	-	-	-	27.6
④なかった	-	-	-	15.9	-	-	-	16.9	-	-	-	23.3

質問13 <質問12で①か②を選んだ人は答えてください。>

読んだ本について話をする相手はだれですか？（R3新設問）

（単位 %）

項 目	小学2年生				小学5年生				中学2年生			
	H23	H28	H29	R3	H23	H28	H29	R3	H23	H28	H29	R3
①友だち	-	-	-	8.4	-	-	-	21.5	-	-	-	48.4
②家族	-	-	-	52.5	-	-	-	38.2	-	-	-	18.0
③家族、友だち	-	-	-	35.0	-	-	-	35.9	-	-	-	32.0
④その他	-	-	-	2.3	-	-	-	1.2	-	-	-	1.6

読書に関するアンケート結果の比較（保護者）

【平成23年10月実施】 回答者数 401人（配布数:478人 回答率:83.9%）

【平成28年10月実施】 回答者数 410人（配布数:492人 回答率:83.3%）

【平成29年10月実施】 回答者数 410人（配布数:478人 回答率:85.8%）

【令和3年10月実施】 回答者数 390人（配布数:446人 回答率:87.4%）

・数字は構成比を表しているが、回答のない項目・複数回答の項目があることや端数処理の関係から、合計が100にならないことがある

質問1 あなたは本を読むことが好きですか？

（単位 %）

項目	H23	H28	H29	R3
①好き	39.2	32.4	32.9	30.8
②どちらかといえば好き	40.6	41.2	43.4	40.5
③どちらかといえば嫌い	18.7	23.7	20.5	24.9
④嫌い	1.5	2.7	2.9	3.8

質問2 ご家庭で、お子さんに本を読んであげたことがありますか？

（単位 %）

項目	H23	H28	H29	R3
①よくあった	37.4	39.8	40.0	40.0
②ときどきあった	50.4	46.3	45.6	48.5
③あまりなかった	11.2	13.4	12.9	10.5
④なかった	0.7	0.5	1.5	1.0

質問3 <<質問2で③か④を選んだ方は答えてください。>>

本を読んであげなかったのは、なぜですか？（2つ選択）

（単位 %）

項目	H23	H28	H29	R3
①子どもが本を読むことが好きではなかったから	16.7	28.1	11.9	42.2
②子どもがテレビやDVD、ビデオを見ていたから	29.2	49.1	50.8	-
③子どもがゲームをしていたから	16.7	14.0	15.3	-
②' 子どもがテレビやゲーム、SNSをしていたから	-	-	-	24.4
④子どもが友達と遊んでいたから	8.3	8.8	18.6	13.3
⑤子どもが勉強やスポーツで忙しく、時間が取れなかったから	14.6	15.8	11.9	24.4
⑥読んであげる本がなかったから	20.8	28.1	15.3	31.1
⑦本を読んであげる時間が家族になかったから	68.8	47.4	59.3	57.8

質問4 あなたは、一か月に何冊くらい本を読みますか？
(マンガ・雑誌は数えません。)

(単位 %)

項 目	H 2 3	H 2 8	H 2 9	R 3
①0冊	31.4	44.6	41.5	43.1
②1～2冊	52.4	43.7	45.6	44.6
③3～5冊	9.2	7.8	9.5	9.5
④6～9冊	3.5	1.7	1.0	1.5
⑤10冊以上	3.5	2.2	2.2	1.3

質問5 <質問4で②から⑤を選んだ人だけが答えてください。>
質問4で答えた冊数のうち、電子書籍はありましたか？(R3新設問)

(単位 %)

項 目	H 2 3	H 2 8	H 2 9	R 3
①0冊	-	-	-	76.1
②1～2冊	-	-	-	16.2
③3～5冊	-	-	-	2.3
④6～9冊	-	-	-	1.4
⑤10冊以上	-	-	-	0.5

質問6 あなたは、お子さんを市立図書館(中央図書館・狭山台図書館・さみどり号)に連れて行きますか？ または過去に連れて行きましたか？

(単位 %)

項 目	H 2 3	H 2 8	H 2 9	R 3
①よく連れて行く(行った)	19.7	17.8	21.5	20.8
②たまに連れて行く(行った)	54.1	56.3	54.4	49.5
③ほとんど連れて行かない(行かなかった)	13.7	18.3	16.3	20.3
④連れて行ったことはない	11.0	7.6	7.8	9.0

質問7 <質問6で③か④を選んだ人は答えてください。>
あなたがお子さんを市立図書館に連れて行かないのは、なぜですか？

(単位 %)

項 目	H 2 3	H 2 8	H 2 9	R 3
①子どもが本を読みたがらないから	19.2	13.2	17.2	25.4
②子どもが読みたい本、または子どもに読ませたい本が置いてないから	2.0	0.9	0.0	0.9
③ほかのことをさせたいから	1.0	1.9	2.0	3.5
④図書館に行く時間がないから	33.3	43.4	32.3	28.9
⑤図書館が近くにないから	26.3	18.9	21.2	14.0
⑥期限までに返せないから	3.0	4.7	8.1	6.1
⑦利用方法が分からないから	2.0	2.8	3.0	4.4
⑧家に本があるから	9.1	10.4	10.1	12.3
⑨ほかに本を借りに行くところがあるから	3.0	0.0	4.0	2.6

質問8 あなたのお子さんが、もっと本を読むようになるためには、何が必要だと思いますか？

(単位 %)

項 目	H 2 3	H 2 8	H 2 9	R 3
①学校に読みたくするような本がたくさんあれば、もっと読むと思う	13.0	11.0	12.0	11.8
②読みたい本をうまく探せたら、もっと読むと思う	30.4	32.3	30.7	32.6
③読みたくするような本を紹介してくれると、もっと読むと思う	10.5	13.9	16.6	15.1
④学校で「読書の時間」がもっとあれば、もっと読むと思う	11.2	13.7	11.2	10.3
⑤「読書マラソン」のような目標があれば、もっと読むと思う	9.2	5.1	6.3	6.2
⑥本を読むことが楽しくなるような教育をすれば、もっと読むと思う	6.5	6.1	6.8	6.7
⑦親がもっと読書に興味をもてば、もっと読むと思う	17.0	13.4	11.0	12.1
⑧特にない	1.2	4.1	4.6	4.4

質問9 あなたは、「子ども読書の日」や狭山市教育委員会が定めた「家庭読書の日」「さやまの100冊」を知っていますか？

(単位 %)

項 目	H 2 3	H 2 8	H 2 9	R 3
①子ども読書の日（4月23日）	—	7.6	6.8	8.2
②家庭読書の日（毎月23日）	—	15.6	13.9	17.4
③さやまの100冊（子どものときに読みたい本100冊）	—	39.0	50.7	43.3

第3次狭山市子ども読書活動推進計画

発行 令和5年3月
狭山市・狭山市教育委員会

連絡先 狭山市教育委員会生涯学習部中央図書館
〒350-1305
埼玉県狭山市入間川二丁目2番25号
TEL 04-2954-4646
FAX 04-2954-0419
E-mail chuo-lib@city.sayama.saitama.jp
ホームページ <https://www.city.sayama.saitama.jp/>